鹿児島大学共同獣医学部畜産学科
（令和６年度開設）
設置の趣旨等を記載した書類

目　　次

I.　設置の趣旨及び必要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
II.　学部・学科等の特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
III.　学部・学科等の名称及び学位の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
IV.　教育課程の編成の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16
V.　教育方法、履修指導方法及び卒業要件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
VI.　企業実習（インターンシップを含む）や学外実習を実施する場合の
具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
VII.　取得可能な資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
VIII.　入学者選抜の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
IX.　教員組織の編制の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
X.　研究の実施についての考え方、体制、取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
XI.　施設、設備等の整備計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
XII.　管理運営及び事務組織　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
XIII.　自己点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35
XIV.　情報の公表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37
XV.　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　・・・・・・・・・・・・・・・　39
XVI.　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　・・・・・・・・・・・・・・・・　40

Ⅰ．　設置の趣旨及び必要性　　（参考資料２頁）

１．設置の背景

農学は、生物・環境資源の利活用を軸として、食料や生活資材、生命、環境に関わる問題を解決するための学問である。平成 27 年 10 月、日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同による農学分野の参照基準検討分科会の審議結果をとりまとめた「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　農学分野」では、農学は、生命科学を中心的基盤にしつつ、幅広い分野の自然科学、さらには人文・社会科学を基礎とする「総合科学」である一方で、生物・環境資源の活用から人類の生存に直接に関連する問題の改善・解消を目指す問題解決型の「実際科学」とし、歴史的にその対象や手法の違いによって７つの基本分野（農芸化学、生産農学、畜産学・獣医学、水産学、森林学・林産学、農業経済学、農業工学）を挙げている。現代的な課題に対応するために、それぞれの分野が発展するだけでなく、連携、融合することで新たな発展を遂げ、新しい領域も生まれている。農学の基本分野の一つである「畜産学・獣医学」は、産業動物（家畜・家禽・昆虫）、伴侶動物、野生動物、実験動物等を対象とする基礎生命科学及び応用動物科学であり、ヒトと動物とその生育する場（草地等）を含めた地球環境システムとの調和を目指し、持続可能な社会の構築を目的とする。ヒトと動物の健康、環境の健全性が共通の世界の上に成り立つ（One World・One Health）との考えに立ち、福祉に配慮しながら動物を飼養管理し、育種改良と繁殖を促し、獣医療及び公衆衛生を介し、良質な畜産物や派生する生産物を安全・安定的に供給することで、人類の食と豊かな生活の基盤を支えてゆく学問分野である。

このように目的を共有する畜産学・獣医学であるが、日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会による「畜産学の特性に配慮した教育・研究課題　－飼育動物の安定的利活用を目指して－（平成 29 年６月）」では、畜産学は、獣医学との結びつきが強いものの、獣医学とは異なる特性を持ちながら教育・研究が行われており、特に畜産学では飼料学や草地学などを含む獣医学以外の農学各分野との結びつきも強く、これらの領域の充実は、畜産学のみならず、獣医学、さらには農学の強化につながるとされている。しかし元来、畜産学・獣医学には、人類が多様な動物と共存する環境を維持しながら飼育動物を安定的に利活用していくために、地球環境や動物の生態に配慮して動物との共生を目指すこと、動物の機能と能力を最大限に生かして時代の要請に応じた育種改良を行い飼育動物の効率的な生産と生産物の安全性を確保することが求められる。学問分野の特性を共有する畜産学と獣医学は、環境微生物叢を含む動物の生態系や動物そのものを包括的に理解する総合科学的視点を重視し、安全な動物性食品の供給、医薬品の開発や生命科学への貢献、野生動物の保護・管理、人獣共通感染症の制御等の公衆衛生、動物の病気の診断・治療及び予防等、多岐にわたる教育研究へと展開していかなければならない。全国に配在されている我が国の獣医学系大学・大学院では、その立地環境や地域性を活かした獣医学教育研究が行なわれているが、教育資源の偏在が各大学における教育研究内容に偏りを生じていることは否めず、これを解消するために複数の獣医系大学による共同教育課程が創出された。平成 24 年４月、鹿児島大学（以下、「本学」という。）農学部獣医学科は、山口大学農学部獣医学科と共同獣医学部を設置し、「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学

的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」を基本理念に、我が国の獣医学教育改革を牽引してきた。実践的な獣医学教育への変革の過程で、我が国の獣医学教育では初めて、「全ての学部学生が、獣医師が担う全職務と獣医療が対象とする全動物種に関する少人数制ハンズオン実習と、一年間にわたる参加型臨床実習」を実現し、欧米の獣医学教育水準が求める「卒業時に必要な獣医師としての知識と技能（Day-One Skills)」を付与する学士課程を遂行し、令和元年６月には、欧州獣医学機関協会（European Association of Establishments for Veterinary Education：EAEVE）による認証をアジアで初めて取得した。その後も「世界水準の獣医学教育研究拠点を基軸とした畜産地・食料基地としての南九州の地域活性化に資する人材育成事業」に取り組み、本学の地域性を活かした産業動物臨床獣医学分野や動物衛生学分野の実践的教育を行う「附属動物病院大隅産業動物診療研修センター（平成 28 年度開設)」を発展させ、地域の畜産・獣医業界との連携による産業動物の参加型臨床実習機能を急速に向上させた。本学では産業動物獣医学教育の特色を更に強化して、より高度な産学官連携体制を創出し、自大学のみならず他大学の学生や国内外の技術者を対象にした実践的畜産獣医学教育を行う「南九州畜産獣医学教育研究センター（仮称)」を構想し、我が国の獣医学教育改革を先導している。当該センター構想を中心に据え、第４期中期目標期間は「産学官連携による畜産獣医学教育研究拠点を基軸とした地域産業創生プロジェクト」を推進し、EAEVE 認証の再受審（令和７年度）に照準を合わせて産業動物臨床獣医学や動物衛生学等の実践的教育環境を産学官連携によって整備し、畜産獣医学の高度技術者養成を通して地域産業の振興に貢献する。この事業推進に合わせて、本学農学部農業生産科学科畜産科学コースを共同獣医学部に合流させることにより、元来、畜産学・獣医学が対象とする産業動物・伴侶動物・野生動物・実験動物分野において獣医師と協働する畜産技術者及び獣医療専門職を養成する「４年制の学科」の新設を企図するに至った。

近年の大学教育における畜産学は、法人化後の改組が繰り返される中で、学術領域の見直しにより、農学の基本分野に対して横断的な学科名へと変更された結果、農学系大学に存在した「畜産学科」は「動物生産学科」、「生物資源学科」又は「応用動物学科」等に改称・編入され、「畜産」を含む学科名は少数となった。本学においても昭和 38 年に新設された農学部畜産学科は、平成２年度の獣医学科を除く農学部改組（６学科を、生物生産学科／生物資源化学科／生物環境学科の３学科に再編）によって、生物生産学科（家畜育種学・家畜繁殖学・家畜管理学）と生物資源化学科（家畜栄養学・畜産化学・畜産製造学）に分かれることとなった。さらに平成 28 年度の農学部改組以降、畜産科学コースとして、農業生産科学科を構成する３コースの１つとなっており、６学問分野（家畜育種学、家畜繁殖学、家畜管理学、食肉科学、家畜生体機構学、栄養生化学・飼料化学）から成る教員組織が担当している。「畜産」という名称を使用しなくなったことによって、受験生や入学者にとっては、生命科学系の実践科学や総合科学としての動物（生物）の特性・生態・福祉へ焦点を当てた「動物学」としての関心は高まったものの、「畜産」や「家畜」への意識が薄いままに卒業し、畜産界以外への就職や進路希望が増大する一方で、畜産行政や畜産企業等における技術者や専門家としての就職は減少傾向が続いている。このような現状を踏まえ、実践科学としての

基本分野「畜産学・獣医学」に相応しい新たな実学教育の体系を創り、その成果として畜産界に資する人材養成の重要性を改めて認識しなければならない。５つの学科（農学・林学・養蚕・農芸化学・獣医）を配置した鹿児島高等農林学校（明治 41 年創立）を起点とする本学農学部に現存する畜産科学コースが、平成 24 年度に学部化した共同獣医学部獣医学科の獣医学教育と連携強化を図り、新たな実学的な教育課程を創出することで「畜産学科」を 34 年ぶりに再興し、獣医師と共に働ける畜産技術者の養成を「畜産を基幹産業とする鹿児島」から取り組む必要がある。

令和６年４月１日付け本改組では、農学部農業生産科学科畜産科学コースの教員組織を農学部から共同獣医学部に異動させて畜産学科を新設するとともに、農学部附属農場施設の１つである入来牧場を共同獣医学部の附属施設へと移管する。これにより、共同獣医学部は獣医学科と畜産学科の２学科制となり、大学設置基準（第 39 条、附属施設）において畜産学教育に必要とされる牧場（入来牧場）を共同獣医学部附属施設に置くことになる。共同獣医学部獣医学科は山口大学との６年制の獣医学の共同教育課程を維持するが、学科名称を共同獣医学科に変更する。一方で、畜産学科は本学教員組織のみによる４年制の学士課程となる。新設する畜産学科では、畜産学と獣医学のハイブリッド教育により、動物福祉に基づく持続可能な動物生産から人の健康・安心・安全に配慮した食料生産を完遂し、我が国の畜産分野の国際競争力強化に資する人材を養成する。（参考資料４頁）

学部の教育目標を、「国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師及び創造性豊かな研究者を養成し、幅広い見識と倫理観をもって人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに、社会のニーズに対応した人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出する。」と定め、畜産物の大量生産と大量消費を支えてきた我が国の畜産農家の大規模化が抱える諸問題（生産病、飼育環境の悪化、病原体侵入・蔓延、周辺地域への公害等）の低減・解決に貢献する一方で、アニマルウェルフェア、人の健康と安心・安全、地球規模での環境保全に社会的信頼を得た国民の基盤的な食料提供システムの構築と、高付加価値な畜産食品を計画的に生産・供給する「新たな未来型畜産」の創出に、我が国最大の畜産地帯である南九州に位置する本学が他大学に先んじて取り組む。欧米水準の獣医学教育とのハイブリッドにより未来志向の畜産学の専門的な知識と技術を修得した畜産技術者が産業動物獣医師や公務員獣医師不足に悩む畜産行政・企業等に多く輩出され、高度専門職業人として活躍するとともに、共同獣医学科においては、新しい価値観に立脚した動物生産システムを理解したうえで、新たな技術革新を考究する次世代の管理獣医師が養成されることが大きく期待される。

２．設置の必要性

人類が多様な動物と共存する環境を維持して飼育動物を安定的に利活用するために、畜産学・獣医学には、（１）地球環境や動物の生態に配慮しながら動物との共生を目指すこと、（２）飼育動物を効率的に生産して生産物の安全性を確保すること、（３）時代の要請に応じた育種改良によって動物の機能と能力を最大限に生かすことが求められている。本学に

おける畜産学科新設にあたり、我が国の畜産学・獣医学の現状及びそれを取り巻く社会的背景を明確化し、本学における畜産学・獣医学教育研究を課題解決に向かう教育研究へと発展・展開させる必要がある。

家畜を飼育し、安心・安全な畜産物を効率的に生産するためには、人材確保と技術開発につながる教育研究が果たす役割は大きい。畜産業界では、高齢化に伴う離職の影響による廃業農家が増加し、家畜を飼養管理する後継者の育成が喫緊の課題である。畜産を基幹産業とする地方を中心に、自治体が設置する農業高校や農業大学校において家畜飼育や畜産経営の魅力を実学によって伝えながら畜産農家の後継者として育成しているにもかかわらず、畜産農家の後継者不足という課題解消に歯止めがかからないことが現状であり、畜産農家の廃業や後継者不足と併せて畜産技術者の減少も続いている。畜産農家の大規模化や企業化が進むに連れて、起業や経営に高い専門性が求められており、動物性食品の自給率向上、輸入食品の安全性確保、あるいは家畜飼料の国産化等を考究し、国内外に多くの課題を抱えた我が国の畜産界の再生に貢献できる人材を養成しなければならない。

畜産業を支える技術の開発につながる畜産研究は、大学の重要な使命である。近年の我が国の農学分野の改組に伴って学科から講座やコースへと規模が縮小された結果、畜産学に配置される教育研究者数は減少しており、獲得する研究資金の減少による畜産研究の衰退、延いては畜産技術の停滞に至ることが危惧される。動物性食品の自給率向上、又はこれら食品の国産化や輸出の増進を妨げる社会背景には、畜産技術の革新につながる大学をはじめとする研究者体制の弱体化が関与していることは否めない。畜産業の強化に向けた産学官連携事業による多様な技術開発を実現するためには、連携の要となる大学における畜産学研究者の拡充が急務となっている。

（１）地球環境や動物の生態に配慮した動物との共生

家畜は乳肉卵などの食料を人に提供する一方で、発生するメタンガスや排泄物は地球環境や人間社会への負荷となっている。農家あたりの飼養規模の拡大、地域における混住化の進行、環境問題への関心の高まりを背景に、家畜の排泄物による悪臭や水質汚染、温室効果ガス、森林破壊等、畜産経営に伴う畜産環境問題（畜産公害）等が生じている。大規模畜産農場化と生産増加に伴う環境負荷やサプライチェーンへの対策等、「持続可能な畜産」に向けた技術革新に取り組むとともに、農場生産、と畜、畜産物の評価・加工・高度利用、畜産副産物の循環利用までの一連の流れを体系的に学ぶ畜産学教育が求められる。一方では、世界的に動物福祉（Animal Welfare：AW）や持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）への意識の高まりとともに、日本の畜産における生産システムの改革が急務とされている。動物の生態や習性による行動を妨げられることがなきよう、その感受性を理解しながらアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理が求められている。国際獣疫事務局（World Organization for Animal Health：WOAH、OIE）では、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を広く普及・定着させるため、「アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理の基本的な考え方について（平成 29 年）」を発出している。その社会的認知度は、実験動物・野生動物・愛玩動物において高まっているものの、家畜のアニマルウェルフェアで

ある「畜産福祉」の概念の認知度は未だ低く、現在の集約的加工型畜産から動物福祉に基づく持続型畜産へとシフトする教育研究が必要である。人や環境への負荷軽減を考慮した畜産への転換、野生鳥獣の適切な管理、また、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理等を図るとともに、食料としての家畜を安定的に生産することが求められている。

（２）効率的な動物生産と生産物の安全確保

社会のグローバル化は「食」と共に「動物由来感染症」のボーダーレス化を生み、「食資源の確保とその安全性」や「感染症の防御・制圧」が、畜産学・獣医学に課せられた喫緊かつ永続的課題となっている。農場経営に甚大な損害を与える豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の動物感染症の病原体侵入や蔓延防止を図るため、畜産飼養者が管理獣医師による飼養管理指導を受け、農場内に衛生管理を重点的に行う区域を設け、人・車両・物の出入りの制限・洗浄・消毒の徹底が必要である。安全な畜産食品を消費者に提供するため、生産から消費までの各段階での食中毒対策のみならず、食品汚染の実態や農場の衛生対策実施状況調査を基にした農場飼養衛生管理基準を策定し、人獣共通感染症予防や食中毒の発生防止への総合的な対策を講じなければならない。家畜に対する抗生物質の治療目的外使用及び過剰投与は、家畜の体内で薬剤耐性菌を増加させる。世界保健機関（WHO）は、このような飼育環境から人が薬剤耐性菌に感染する状況を懸念しており、我が国においても薬剤耐性菌への対応が急務とされている。このように畜産学・獣医学は、動物の生態系や動物そのものを包括的に理解する総合科学的な視点を共有し、安全な動物性食品の供給、医薬品の開発や生命科学への貢献、野生動物の保護や管理、人獣共通感染症の制御等の公衆衛生、動物の病気の診断・治療及び予防に貢献する教育研究の推進に協働して行くことが求められている。

（３）時代の要請に応じた育種改良

畜産学・獣医学は、人の食を支える家畜の品種・繁殖・飼養・管理に関する方法の改良、生産物の成分解析や食品加工等の技術開発に関わる重要かつ幅広い教育研究分野であるが、近年の生命工学（ゲノム解析・編集、遺伝子改変技術、胚操作、クローン胚作製技術等）の発展に伴い、育種改良につながる応用動物学の教育研究が急進しているものの、使用する農場動物や実験動物の生命倫理や福祉、人と動物の健康への影響、環境負荷等の社会的課題への対応の遅れは否めない。一方で、人間本位の立場から驚異的なスピードで進められていく動物科学の進歩や高度化がもたらす地球生命への脅威に対して警鐘を鳴らすとともに、畜産学の教育研究を動物の健康と福祉を守る獣医学と協働し、相互的な牽制体制を執りながら新たな局面へと進展させる重要な時期にきている。

３．教育の目的　　（参考資料３、４頁）

本学共同獣医学部は、「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」ことを基本理念として山口大学共同獣医学部と共有している。

畜産学科を新設するにあたり、本学共同獣医学部の教育目標「国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師及び創造性豊かな研究者を養成し、幅広い見識と倫理観をもって人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに、社会のニーズに対応した人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出します。」とし、新設される畜産学科の教育目標として、「動物福祉の概念を理解し、生物学的・化学的知識を基盤として畜産学と獣医学の素養を併せ持ち、持続可能な動物生産、人の健康・安心・安全に配慮した食料生産及び高付加価値な畜産食品の開発・流通に関する高い知識と技術を涵養し、もって我が国における未来型畜産への新興と改革を牽引して国際競争力強化に貢献できる人材を育成します。」を定めている。

これらの教育目標に基づき、卒業認定者が身に付ける能力を以下のように定めている。

【共同獣医学部のディプロマ・ポリシー】

（１） 豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力
（２） 獣医学・畜産学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心を持ち、問題解決できる能力
（３） 動物感染症に関する基礎知識を持ち、その制圧に寄与できる能力
（４） 高度な動物医療に関する基礎知識を持ち、適切に実践できる能力
（５） 畜産資源に関する基礎知識を持ち、その安定供給と安全性確保に資する能力
（６） 国際社会と地域社会に貢献できる能力

【共同獣医学部畜産学科のディプロマ・ポリシー】

（１） 豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力
（２） 生命倫理と動物福祉に基づいた動物生命科学研究を行う知識と論理的考究の能力
（３） 人と動物の健康と環境の健全性に配慮した動物生産・食料生産を管理・指導する能力
（４） 持続可能な畜産経営のための革新的テクノロジーの社会実装化に取組む能力
（５） 高付加価値な畜産食品の開発と国際流通に係る畜産物と加工品の評価分析を実践できる能力

これら能力を身に付けるための教育課程の編成及び実施の方針を次のように定めている。

【共同獣医学部のカリキュラム・ポリシー】

教育目標に掲げる人材を育成するために、山口大学との共同教育課程では、同一授業科目を同一のシラバス及び時間割に従って履修する。教育目標に掲げる人材を育成するために、両大学の教員がそれぞれの教育資源を有効に活用し、幅広い、専門性の高い獣医学

教育を提供する。この共同教育課程のカリキュラムにより、次のような知識、技術、能力を身に付けさせる。

（１） 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

① 生命倫理と動物福祉に関する知識を身に付けるために、斉一教育科目（必修科目）に導入科目を配置する。

② 動物体の構造と生理機能、生体に作用する化学物質と作用機構についての基礎知識と動物生命科学の研究を行うための技術を身に付けるために、斉一教育科目に基礎獣医系科目を配置する。

③ 病気による動物体の変化、病原体の構造と病原性、感染症の予防と制圧に関する知識と技術を身に付けるために、斉一教育科目に応用獣医系科目を配置する。

④ 伴侶動物の病気とその予防・診断・治療の知識と技術を身に付けるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置する。

⑤ 畜産資源である産業動物の病気とその予防・診断・治療、生産性向上と食の安全についての知識と技術を身に付けるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置する。

⑥ 高度な知識と国際社会及び地域社会に貢献できる能力を身に付けるために、アドバンス教育としての専修教育科目（選択科目）を配置する。

（２） 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行う。

（３） 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学習目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行う。

【共同獣医学部畜産学科のカリキュラム・ポリシー】

教育目標に掲げる人材を育成するために、教育資源を有効活用し、幅広い、専門性の高い畜産学教育を提供し、次のような知識、技術及び能力を身に付けさせる。

（１） 初年次から卒業まで一貫した畜産学と獣医学のハイブリッド教育課程を編成

① 導入教育及び基礎教育科目を配置し、動物への正しい生命倫理、基礎的な生命科学の知識及び実践的な英語力を培う。

② 畜産学の専門科目に加えて、基礎獣医学及び病態予防獣医学の専門科目を必修科目として配置し、畜産学と獣医学に関する基礎的な知識と技術を修得する。

③ 進路教育を強化すると共に、畜産生産系技術者、畜産化学系技術者及び獣医療系技術者の養成につながる選択科目を配置する。また、農学科目の選択履修も可能とする。

（２） 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行う。

（３） 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学習目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行う。

また、獣医学や畜産学に取り組む知識欲と探求心、これを実践し活用する論理性と創造力及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた入学者の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めた。

【共同獣医学部のアドミッション・ポリシー】

（１） 求める人材像

発展・進化する獣医科学及び畜産科学に取り組む知識欲と探求心、これを実践・活用する論理性と創造力及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求めている。

① 獣医師の幅広い職責について理解し、獣医学を志す明確な目的意識を有する人

② 動物を慈しみ、動物生命科学研究によって畜産資源の安定供給と安全性確保に貢献する目的意識のある人

③ 自然科学、人文・社会科学及び語学に関する基礎教科を満遍なく学習し、獣医学・畜産学の知識や技術を充分に理解、修得するための基礎学力を身に付けている

④ 人と動物の健全な共生社会実現のために積極的に取り組む意思を有し、社会的にコミュニケーションがとれる人

【共同獣医学部畜産学科のアドミッション・ポリシー】

（１） 求める人材像

畜産科学に取り組む知識欲と探求心及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求めている。

① 動物を慈しみ、動物生命科学研究、動物生産、食料生産及び環境保全に強い関心を持って、将来、畜産分野で活躍をめざす明確な目的意識のある人

② 自然科学に幅広い知識と外国語の基礎学力を備え、専門知識・技能を活用して課題解決に取り組むための思考力・判断力・表現力の修得に意欲のある人

③ 人と動物の健全な共生社会実現に積極的に取り組む意思を有し、社会的コミュニケーションがとれる人

（２） 入学前に身に付けておいて欲しいこと

大学入学共通テスト及び個別学力検査等で課す教科・科目における基礎学力と思考力が必要になる。また、面接においては自分の考えを明確に表現する能力を身に付けておく必要がある。

（３） 入学者選抜の基本方針

① 一般選抜（前期日程）：大学入学共通テストで５教科７又は８科目を課すとともに、個別学力検査で数学（数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ）、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物・地学から１科目）、英語（コミュニケーション英

語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ）のうちの２科目を課し、基礎学力、思考力を評価する。

② 一般選抜（後期日程）：大学入学共通テストで５教科７又は８科目を課すとともに、個別学力検査では面接調書を作成して面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、表現力、適正を評価する。

③ 総合型選抜（自己推薦型選抜）：大学入学共通テストで３教科５又は６科目を課すとともに、個別学力検査等で講義型試験及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

④ 学校推薦型選抜Ⅰ（専門高校等対象）：農業科，農業経営科，畜産科，生物工学科あるいはこれらに準ずる学科、もしくは総合学科を対象に、高等学校の学習成績概評がＡ以上の者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を評価する。

⑤ 学校推薦型選抜Ⅰ（普通科等対象）：高等学校等において、理科または畜産・食品関連をテーマとした研究に関する活動を主体的に取り組み、学校内外いずれかで成果発表（インターネットを通じた発表も可）を行った経験を有する者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文とプレゼンテーションを課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

⑥ 国際バカロレア選抜：高い IB フルディプロマのスコアを有する者について、書類審査及び面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、英語能力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

⑦ 私費外国人学部留学生選抜： TOEFL 又は TOEIC 及び日本留学試験を課し、さらに面接用作文を作成して面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、志望動機、勉学意欲、英語能力を総合的に評価する。

４．中心的な学問分野

共同獣医学部畜産学科では、各附属施設やフィールドを活用した実践的教育を充実するとともに、畜産学と獣医学の教育資源を共有した教育連携カリキュラムを構築して、双方の素養を併せ持ち、畜産界において産業動物獣医師と協働できる未来志向の畜産技術者の養成を目指す。従前の畜産生物系や畜産化学系の公務員や畜産企業技術者だけでなく、農業共済組合家畜診療所等で臨床検査や診療補助を行う獣医療技術者養成の履修モデルも想定して、進路選択や資格取得に応じた授業科目の選択を可能にする。

また、本学共同獣医学部は、平成 30 年度に大学基準協会による国内の獣医学教育評価を受審し、認証を受けている。また、令和元年度には EAEVE による獣医学教育認証を取得しており、欧州水準の獣医学の専門教育を行っている。本学共同獣医学部の特長は、大規模農場、農業共済組合、家畜保健衛生所、食肉衛生検査所等と連携して、家畜や島嶼野生動物の感染症制御、食品の安定供給と安全性確保及び産業動物獣医療に関する先進的な教育研究を実

践できるフィールドとしての教育資源を提供できることである。肉牛、養豚及び養鶏農場において家畜を直接対象とする共同研究プロジェクトが盛んであり、産業動物獣医学の先進的な研究成果が地域の活性化に極めて重要と理解されている。越境性動物疾病の侵入を監視・制御する国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門九州研究拠点が鹿児島市に設置されており、共同獣医学部との教育・研究の交流は長年活発である。南九州の畜産を越境性動物疾病の脅威から守ることを目的として平成23年度に設置した附属越境性動物疾病（Transboundary Animal Disease：TAD）制御研究センターは、高病原性鳥インフルエンザ等の動物感染症のリスクを抱える出水市、鹿児島県及び環境省と連携し、疾病拡大の抑制に貢献している。附属動物病院には、小動物診療センター、牛・馬の二次診療施設である大動物診療センター及び軽種馬診療センターに加え、大隅半島の産業動物診療拠点となる大隅産業動物診療研修センターを通じて社会との関係性は強く、産業動物・伴侶動物の獣医療全般に関する研究材料は幅広く、かつ豊富である。

さらに、本学農学部は、南九州という多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を活かし、フィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、応用・実践能力、国際性を備えた、農林業、食品産業等及び食住農関連分野の技術者・指導者等の育成を教育目標としている。農業生産科学科畜産科学コースでは、家畜の繁殖、育種、飼養管理、栄養及び解剖を基本として、人工繁殖技術の開発、発生工学、遺伝子改変家畜の作製、動物遺伝資源の評価、経済形質と遺伝的多型との関係、地域未利用資源の畜産的利用、放牧、アイガモ農法、鳥獣害防除、新飼料資源の開発、栄養代謝メカニズムの解明、産肉生理及び骨格筋の組織学的特性などに関する教育研究を行い、環境と調和した新しい畜産科学の構築を目指し、これらの研究を通した教育によって指導的役割を果たし得る広い視野と国際性を持った人材を養成している。また、農学部附属農場では、南九州の温暖な気候と鹿児島県内各地に機能分散させた利点を最大限に活かし、地域に密着した作物・園芸・飼料・畜産に関する生産活動を通じたフィールドを活用する教育研究を行っている。附属農場施設のうち家畜専門の教育・研究施設となっている入来牧場（昭和43年に種子島から薩摩川内市入来町に移転設置）は、鹿児島市から北方約30km、海抜516mに位置する147haの広大な敷地に、現在約200頭の黒毛和種牛を放牧管理しており、その繁殖から肥育に至るまでの全ての生育段階の教育・研究を行うだけでなく、南西諸島の貴重な遺伝資源である口之島野生化牛やトカラ馬を飼養しており、その保護と増産に取り組んでいる。

５．教育上の到達目標　　（参考資料５頁）

共同獣医学部畜産学科では、動物福祉に基づく持続可能な動物生産から人の健康・安心・安全に配慮した食料生産を完遂し、我が国の畜産獣医の国際競争力強化に資する人材の養成を目標としている。そのために、畜産学・獣医学における教育研究の現状や課題を踏まえ、以下のような教育上の到達目標を定めた。

（１）動物福祉の基本概念から畜産福祉に配慮した家畜の飼養管理教育の実践

（２）畜産農場における動物疾病、防疫対策、食品衛生検査、薬物毒性に関する知識の付与

（３）競争力の高い畜産物の生産と低環境負荷を実現する持続可能な未来型畜産システムの考究

それらを達成することで、以下の成果が期待される。

（１）動物福祉（AW）を基盤とした生産システムにおける新たな獣医畜産技術の創出による、動物の生態や行動を妨げない農場環境や飼育管理技術の革新。

（２）「人と動物の健康と環境の健全性」One Health に配慮された畜産物供給のための技術革新や施策提案を通じた、生産病の低減、防疫、食中毒防止、薬剤耐性の低減。

（３）未来志向型「持続可能な畜産」の生産・経営システムの社会展開による、排水汚染等の畜産公害、温室効果ガス、森林破壊等の環境問題、畜産物の国際競争力・サプライチェーン強化に取組む先進的畜産人材の育成。

６．山口大学共同獣医学部との合意事項

獣医学が関わる畜産農場や食品生産工程では、病原体侵入や動物感染症の蔓延、人獣共通感染症や食中毒のリスク、抗生物質の治療目的外使用や過剰投与と耐性菌による人と動物の健康被害、動物福祉への対応が強く求められる中、我が国における農学・獣医学・水産学の南の教育研究拠点である本学に「共同獣医学部畜産学科（４年制）」を新設し、畜産学と獣医学の教育の充実を図ることについて、共同教育課程を構成する山口大学共同獣医学部と以下の事項について合意した。

（１） 共同教育課程が共有する教育の基本理念の下、鹿児島大学共同獣医学部の教育目標と３ポリシーを新設する一方で、従前の教育目標と３ポリシーは山口大学共同獣医学部共同獣医学科と鹿児島大学共同獣医学部共同獣医学科で共有する。

（２） 鹿児島大学共同獣医学部畜産学科畜産科学講座の専任教員が共同獣医学課程の科目を担当する場合には、双方の獣医学科の学生が遠隔授業等で受講することができる。

（３） 鹿児島大学共同獣医学部に畜産関係の附属施設（附属牧場等）が併設された場合には、双方の獣医学科の学生が共同教育課程の授業科目において使用することができる。

畜産学科では、畜産学と獣医学のハイブリッド教育によって獣医師に比肩するスキルを身に付けた畜産技術者を輩出し、動物福祉と One Health（人・動物の健康と環境の健全性）に取組み、社会からの信頼を得た基盤的食料提供システムの構築と、高付加価値な畜産食品を生産・供給する未来型畜産の創出に貢献する。共同獣医学部における２つの学科において、畜産行政や企業等において重責を担う高度専門職業人としての未来志向の畜産技術者とともに、新しい価値観に立脚した動物生産システムを理解して新たな技術革新を考究する次世代の管理獣医師が養成されることが期待される。この点からも、今回の本学改組が共同獣医学課程の教育においても有益であることを合意している。

Ⅱ．学部・学科等の特色

我が国の畜産業は、農業の基幹的部門へと成長を遂げてきた（畜産産出額は、農業総産出額のおおよそ３分の１）が、解決策を見いだせない課題が山積している。全国的に飼養戸数が減る一方で、飼養頭数・羽数が増加または高止まりし、一戸当たりの飼養頭数・羽数は増加の傾向にある（畜産農場の減少と大規模化）。家畜を育てて畜産物を生産するためにかかる飼料の購入費用（配合飼料の９割が輸入）は畜産農家の全経営コストの半分以上を占め、その価格高騰が経営を逼迫している。畜産産出額の３分の１を占める南九州（鹿児島・宮崎・熊本）では、昨今の国内外における様々な情勢（コロナ禍における食肉の国内消費の低迷、ウクライナ問題による輸入飼料やエネルギーの不足や価格高騰等）が畜産農家の経営を直撃し、結果的に地域経済への大きな影響をもたらすことになる。このような中、我が国最大の畜産地帯を抱える南九州に立地する本学は、基本分野としての水産学を含む「農学」教育研究の特色化を通じて、地域貢献・産学官連携・国際交流等の社会貢献機能を高めていくことを基本構想としている。令和６年度に向けた本学農学部と共同獣医学部の組織改編では、農学部農業生産科学科畜産科学コースを共同獣医学部に合流させて畜産学科を新設し、農学部においては３学科を１学科に集結させる構想となっている。

本学共同獣医学部においては、平成 24 年度に農学部から獣医学科が独立し、山口大学と我が国初の共同学部を設置して 10 年が経過した。この間、本学共同獣医学部は、山口大学共同獣医学部とともに、我が国における獣医学教育の改革を牽引し、教育体制とカリキュラムの改編を繰り返しながら、国内外の第三者評価を受審してアジア初となる欧州獣医学機関協会（EAEVE）の認証評価を得ることができた。その一方で、EAEVE による評価では、両校の教育研究施設や特性を共有した共同活動の強化が提案された。その後、本学では地の利を活かした産業動物獣医学の教育の特色化や高度化を図り、大規模畜産農場が多数存在する大隅半島の肝属地区に大隅産業動物診療研修センターを開設し、さらには日本一の農業産出額を誇る宮崎県都城市の隣接地である曽於市財部に南九州畜産獣医学教育研究センターの整備を進めている。これにより、肉用牛・豚・鶏の畜産生産額では全国１～３位の市町村（都城・鹿屋・曽於）を巻き込んだ産学官連携による畜産獣医学教育研究拠点を構想し、実現に向かって鋭意、取組んでいる。さらに、この度の農学部改組を伴う「共同獣医学部畜産学科の新設」によって、産業動物獣医師に比肩する高度専門職業人としての畜産技術者の養成を企図する。また、これら特色ある新たな教育研究施設や改組によって整備される教育体制は、本学の学生のみならず共同教育課程である山口大学の学生も実践的な教育の場として共有するようになる。

「共同獣医学部畜産学科」を設置し、畜産物の大量生産と大量消費を支えてきた我が国の畜産農家の大規模化が抱える諸問題（生産病、飼育環境の悪化、病原体侵入・蔓延、周辺地域への公害等）の低減や解決に貢献できる人材を輩出するとともに、アニマルウェルフェア、人の健康と安心・安全、地球規模での環境保全に社会的信頼を得た国民の基盤的食料提供システムを通じて、高付加価値な畜産食品を必要量生産・供給する「新たな未来型畜産」の創出に、我が国最大の畜産地帯を抱える南九州に位置する本学が、他大学に先んじて取り組む。欧米水準の獣医学教育と新たな畜産学のハイブリッドにより未来志向の畜産学の専門的な

知識と技術を修得した畜産技術者が、産業動物獣医師や公務員獣医師不足に悩む畜産行政や畜産企業等に多くを輩出することによって重責を担う高度専門職業人として活躍することを期待している。一方、獣医学教育においては、新しい価値観に立脚した産業動物の生産システムを理解し、新たな畜産技術の革新を考究する次世代の管理獣医師が養成されることにも大きな期待を寄せている。

Ⅲ．学部・学科等の名称及び学位の名称

１．学科の名称

鹿児島大学共同獣医学部畜産学科：

Kagoshima University, Joint Faculty of Veterinary Medicine,

Department of Animal Science and Welfare

理由：本学と山口大学は、「共同獣医学部及び研究科」を各大学に設置し、「獣医学部及び研究科」の教育カリキュラムを共同で実施している。本学共同獣医学部に新設される畜産学科の教育カリキュラムは両大学による共同教育課程ではないものの、新設される畜産学科の教員は、共同獣医学部の教育カリキュラム（畜産科学、作物・草地学、動物福祉学、動物遺伝学、動物行動学、食品科学、食品加工学実習、獣医予防管理学、牧場実習等）も分担する。併設される附属施設（附属牧場等）も、双方の獣医学科の学生が共同教育課程の授業科目において使用する。このように、本学は共同獣医学部開設時の相互補完教育の大原則を維持し、EAEVE 認証取得後にそれぞれがさらに特化した実践的獣医学教育を相互提供し、共同教育による先進モデルとして、我が国の獣医学教育改善に持続的に取り組んでいく。すなわち、本学共同獣医学部畜産学科設置後も、共同学部の教育研究及び学部運営は山口大学共同獣医学部と発展的に協働する所存であることから、「共同獣医学部」畜産学科という名称を維持している。ただし、同一学部内における共同教育課程とその他の課程とを区別するために、獣医学科の名称は「共同獣医学科」に変更する。また、英語名称は、国際的な学術界において畜産学を意味する Animal Science（動物科学）を獣医学的視点である Animal Welfare（動物福祉）を重視して行うことを包含している。

２．学位の名称

本学共同獣医学部畜産学科の課程を修了した場合、「学士（農学）、Bachelor of Agriculture」の学位が授与される。

理由：学位記には、本学共同獣医学部畜産学科の課程を卒業したことを記載した「学士（農学）」の学位記が大学長名で授与される。

Ⅳ．教育課程の編成の考え方及び特色

１．教育課程の編成の考え方　　（参考資料 10～12 頁）

畜産学・獣医学教育では、生きた動物を取り扱い、それらの動物が人と共に健全な環境で維持されていること、人類の生存のために重要な役割を担っていることを十分に理解しなければならない。学生は、動物と人の健康、畜産物の生産等についての正確な知識を自ら学び、社会現状が抱える難題を解決するためのプロセスを構築して遂行し、得られた成果を社会一般に正確に伝える能力が求められる。共同獣医学部畜産学科の教育課程は、上述したディプロマ・ポリシーに定める能力を身に付けるように設定したカリキュラム・ポリシーに従って、専門教育科目を獣医学科と畜産学科の教員が共同で担当し、学生の進路に応じた授業科目を選択できるよう編成している。

（１）カリキュラム・ポリシー

学士（農学）の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき設定した、共同獣医学部畜産学科で育成する人材の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）は次のとおりである。

教育目標に掲げる人材を育成するために、教育資源を有効活用し、幅広い、専門性の高い畜産学教育を提供し、次のような知識、技術及び能力を身に付けさせる。

① 初年次から卒業まで一貫した畜産学と獣医学のハイブリッド教育課程を編成

1) 導入教育及び基礎教育科目を配置し、動物への正しい生命倫理、基礎的な生命科学の知識及び実践的な英語力を培う。

2) 畜産学の専門科目に加えて、基礎獣医学及び病態予防獣医学の専門科目を必修科目として配置し、畜産学と獣医学に関する基礎的な知識と技術を修得させる。

3) 進路教育を強化すると共に、畜産生産系技術者、畜産化学系技術者及び獣医療系技術者の養成につながる選択科目を配置する。また、農学科目の選択履修も可能とする。

② 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行う。

③ 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学習目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行う。

（２）科目区分の設定と構成

上述した人材の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）を実現するため、以下に述べる５つの科目群を設定する。科目区分の ①が共通教育に、②～⑤が専門教育に属する。

① 共通教育科目
② 導入・基礎教育科目
③ 専門基礎科目
④ 専門応用科目
⑤ 自由科目

（３）各科目区分の科目編成

①　共通教育科目

教養教育科目と初年次教育科目及びグローバル教育科目から構成され、幅広い教養と豊かな人間性と倫理観の涵養を目的として、本学総合教育機構の共通教育センターや他学部の教員が全学的に担当する。

②　導入・基礎科目

専門教育科目における高大接続を担う低学年での科目群であり、基礎生物化学、生化学、分子生物学に重点を置いた科目構成として、併せて畜産技術者としての「畜産キャリア形成」、国際化に対応する「動物科学専門英語」及び「欧文講読」の科目を配置した。

③　専門基礎科目

畜産学と獣医学の素養を付与する科目編成となっており、全て必修科目である。畜産学の基礎となる 18 科目（畜産学、家畜飼養管理学等）に加えて、獣医学分野の開講科目を従前より大幅に増加させた基礎及び応用獣医学の 14 科目（動物福祉学、動物と人間の関係論等）を配置した。これらの科目は概ね２年次までに履修するが、畜産物加工実習と卒業研究論文は、３年次以降に開講する。

④　専門応用科目

学生が将来の進路に応じて授業科目を選択する科目群であり（応用畜産学 13 科目 17 単位、臨床獣医学 13 科目 21 単位、農学４科目８単位）、を３年次以降に配置した。これらは畜産生産系技術者、畜産化学系技術者及び畜産獣医療系技術者の養成につながる３種類の履修モデルに対応した科目編成となっている。

⑤　自由科目

畜産学・獣医学が農学の基本分野であることにも十分配慮して、農学部における開講科目（食料経済学、応用微生物学等）も選択して履修可能とした。以上のような科目は、３年次から４年前期までに配置し、学生には入学時の新入生オリエンテーションや２年次終了時の春季休業時に履修モデルについての説明と履修指導により効率的な授業科目の選択ができるようにする。また、進路・就職に必須又は有利となる資格の取得に対応した自由科目（作物学、スマート農学入門、農業と社会、伴侶動物学、愛玩動物関連産業概論）も配置した。

２．教育課程の特色及び科目の対応関係

共同獣医学部畜産学科では、「動物福祉の概念を理解し、生物学的・化学的知識を基盤として畜産学と獣医学の素養を併せ持ち、持続可能な動物生産、人の健康・安心・安全に配慮した食料生産及び高付加価値な畜産食品の開発・流通に関する高い知識と技術を涵養し、もって我が国における未来型畜産への新興と改革を牽引して国際競争力強化に貢献できる人材を育成」を教育目標としている。畜産学・獣医学の現状や課題を踏まえて定めた以下の教育上の到達目標（１－（５））に向けて、特色ある教育課程を計画している。

（１）動物福祉の基本概念から畜産福祉に配慮した家畜の飼養管理教育の実践

学部附属の牧場（入来牧場）及び農場（南九州畜産獣医学教育研究センター（仮称）の肉鶏農場）において教育研究の目的で飼養管理される動物の福祉（AW）を推進するために、新たな農場動物利用プログラムを構築して、それに準拠した牧場実習を行う。具体的には、人道的かつ倫理的な動物のケアと科学的妥当性を伴う継続的な改善の取組が行われており高品質かつ適正な農業動物管理基準に達した教育研究施設であることの第三者質保証である「AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）のAg Guide（The Guide for the Care and Use of Agricultural Animals in Research and Teaching)」の認証を受けた実習／実験用としての牧場での動物の飼育管理利用体制を整備する。国内の農学系教育研究機関において未だ前例のない認証を取得・維持することを通じて、欧米水準の畜産動物の福祉教育を行い、新しい畜産人材を輩出する特色ある教育課程とする。この認証取得により、国内大学の附属牧場に畜産福祉の概念が拡がるとともに、アニマルウェルフェアに資する動物飼養監視技術に関する研究が我が国においても急展開すると期待される。

これら学部附属の牧場及び農場では動物の生産から出荷までを行うため、畜産生産工程管理を踏まえた包括的な畜産農場管理運営を行う。農場ＨＡＣＣＰ（Hazard Analysis Critical Control Point）である「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準」を包括する畜産ＧＡＰ（Good Agricultural Practices）は、農業生産活動の持続性を確保するために、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守する点検項目を定め、これらの実施、記録、点検、評価を繰り返し行いつつ、生産工程の管理や改善を行う取組である。学部附属の牧場及び農場において我が国の畜産ＧＡＰに適合した運営を行い、学士教育課程においては国内で初めて、動物衛生学（必修科目）の中でＧＡＰ教育（本学共同獣医学部では、令和４年度中に、畜産ＧＡＰ認証推進室を設置し国内では３つ目のＧＡＰ審査機関としての申請予定）を行い、飼養管理衛生から労働安全に至る、畜産農場運営を幅広く指導できる能力を培う。

（２）畜産農場における動物疾病、防疫対策、食品衛生検査、薬物毒性に関する知識の付与

共同獣医学部畜産学科では、畜産学におけるOne Health教育を重点化し、人と動物の健康と環境の健全性につながる畜産技術者養成を推進するために、畜産学教育における獣医学的要素を強化して、動物疾病の病因・診断・治療・予防に関する知識と技術を修得する次世代カリキュラムを構築している。従前の農学部への獣医学関連科目（家畜解剖学、家畜生理学等）の提供に止まらず、４年間を通じて獣医学が畜産技術者養成に参画することで、畜産動物の健康が人間社会及び環境の健康につながる教育を充実させる。具体的には、専門基礎科目のうち、動物薬理毒性学では飼料に添加される薬物の体内動態と残留を、実験動物学では畜産動物の教育研究での使用に関する知識を修得し、動物病理学では家畜の疾病の原因と成り立ちを、また、動物感染症学では野生動物を含む動物間を行き交う疾病や、動物と人とのバイオハザードに関する知識を修得する。さらに、選択必修科目うち、動物内科学・外科学・検査学では、生産病を含む代謝疾患や蹄病等の疾病診断・予防の知識と技術を修得する。

（３）競争力の高い畜産物の生産と低環境負荷を実現する持続可能な未来型畜産システムの考究

畜産の持続可能性と国際競争力の両立を目指す課題解決型の教育研究を推進するために、附属牧場（入来牧場）における「肉用和牛生産の放牧型畜産モデル化」、及びそれに伴うイノベーション研究を通じた実践的教育を行う。食料自給率向上、メタンガス排出低減、持続可能な消費・生産等につながる放牧型畜産の教育研究を行い、未来志向型の肉牛生産システム、環境調和型畜産、SDGs畜産として期待される新たな畜産システムのモデルケースを目指す。入来牧場では、DX型先端家畜生産教育研究施設への再開発を進め、DX化による未来型の家畜飼養管理パイロットシステムを構築し、さらに「常に家畜と触れ、家畜から学ぶ」という本学独自の畜産学の教育研究環境と合わせた新たなシステムを利活用できる知識と技術を育む。

高級でブランド志向の畜産物の大量生産システムとなっている現在の課題を見直し、付加価値のある畜産物の生産と消費拡大につながる新たな畜産技術の開発が求められている。そのために、枝肉→ 畜産物加工→ 評価分析→ 衛生管理をシームレスに学習できる実践的教育施設である畜産食品教育研究センター（仮称）を整備して、食肉生産の総合的な教育体制を構築し、枝肉解体・加工調理・分析評価についての相互連携による高度な実習教育を行う。畜産物及び加工品の物性・化学成分の分析と食味官能評価技術を教育研究して、食味官能評価や畜産物の化学分析に関する実習や実験を通じて、分析手法と分析結果に基づく「うま味・美味しさ」の評価の技術を修得する。

Ｖ．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

共同獣医学部畜産学科の教育は、家畜の生産及び飼養管理の教育研究を行う「家畜育種学・家畜繁殖学・家畜飼養管理学分野」と、家畜飼料及び畜産物の評価・分析の教育研究を行う「栄養生化学飼料化学・食肉科学・畜産物利用学分野」から成る畜産科学講座に、基礎獣医学講座、病態予防獣医学講座及び臨床獣医学講座が参画して、次世代の畜産技術者や獣医療技術者としての高度専門職業人に求められる知識と技術を修得できる実践的な専門教育科目を提供する。

１．授業方法・単位

共通教育科目では、初年次教育科目及びグローバル教育科目（いずれも必修科目で 18 単位）と、教養教育科目（選択必修科目 12 単位）を履修する。専門教育科目は、低学年次に導入・基礎教育科目と専門基礎科目をいずれも必修科目（42 科目 68 単位）を、高学年次には学生個々が希望する進路に応じた履修モデルに従って専門応用科目（30 科目 46 単位から 26 単位以上を選択）を履修する。１年次には共通教育科目（28 単位）と導入・基礎教育科目及び専門基礎科目（必修科目 11 単位）、２年次には共通教育科目（２単位）と導入・基礎教育科目及び専門基礎科目（必修科目 42 単位）、３年次には導入・基礎教育科目及び専門基礎科目（必修科目 7 単位）と専門応用科目（選択科目 31 単位）、４年次には導入・基礎教育

科目及び専門基礎科目（必修科目８単位）と専門応用科目（選択科目 15 単位）を配置している。共同獣医学部畜産学科では、履修科目の年間登録上限（CAP 制）を１学期 24 単位（年間 48 単位）に設定する。GPA が 3.0 以上の学生を対象に、１学期 28 単位（年間 52 単位）を上限とした上級学年次の授業科目の履修を可能とする。授業科目の１単位（45 時間の学習を必要とする内容）は、授業時間外の予習と復習（１回２時間の授業について各２時間の予習復習を含むため、計算上、計６時間×7.5 回＝１単位）に要することを考慮して定め、十分な自己学習時間を確保するために、履修科目の年間登録に上限をかけている。さらに、複数の選抜方法で入学してきた学生が持つ異なる知識、能力、経験等のバックグラウンドを踏まえながら、履修指導や畜産のキャリアデザインの形成を支援するために履修指導教員（チューター教員）を配置する。入学時に決定した履修指導教員が、３年次後期の研究室配属までの約 2.5 年間の学生支援を担当する。研究室配属後は卒業研究論文の主指導教員が学生支援も担当する。

共同獣医学部畜産学科の専門教育は、共同獣医学部で設置済である遠隔講義システムの機能を拡張して、学部附属の牧場や農場等の遠隔地施設と大学のメインキャンパス（郡元キャンパス）とを接続する双方向遠隔授業システムを基盤にした情報通信技術（ICT）による高度教育・実習統合システムを整備し、学生が授業科目等の履修において遠隔地との移動等による時間的制約を受けないようにする。特に、高学年次の卒業研究論文のための研究では、遠隔地にある附属施設おいて実践的な実習やフィールド実験を継続的に行いながら、オンラインやオンデマンド授業の履修を可能にする。

（１）講義

畜産学及び獣医学の専門的な知識を付与するための主たる授業科目であり、必修科目及び選択科目として、対面授業形式、リアルタイムオンライン授業形式（遠隔地にある附属施設の教員又は非常勤講師による授業配信）、ビデオオンデマンドを組み合わせて実施する。専門応用科目（選択科目）の一部（バイオインフォマティクス、家禽生産学、畜産物高度利用学、適正飼養指導論、動物生活環境学）は集中講義としている。対面及びオンラインによる講義科目は全て録画し、学生が自己学習に活用できるようにする。

（２）実験・実習

畜産学及び獣医学の専門的な技術を修得するための主たる授業科目であり、必修科目及び選択科目として、キャンパス内の実験・実習室において対面形式で実施するアクティブ・ラーニング科目である。牧場、農場、動物病院等の附属施設における実習では、実験・実習用に管理される動物だけでなく、飼養管理者がいる動物の飼養管理を通じたより実践的な内容を、少人数の対面によるゼミ方式で進め、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を培う。附属牧場等の遠隔実習地に滞在して行う実習に参加している学生に対しても、大学キャンパスから配信される質の高いオンライン授業をリアルタイムで受講できるような体制を構築する。

（３）卒業研究論文

３年次後期には研究室に配属して、４年次から卒業研究論文の作成を開始する。学生自らが描く畜産キャリアデザイン及び履修指導教員や学年担任教員の意見も踏まえつつ、卒業研究論文作成のための主指導教員を決定する。畜産学科学生定員30人に対して畜産科学講座の専任教員８人が主指導教員となって、教員あたり３～４人の学生の研究を指導する。基礎・病態予防・臨床獣医学講座教員も副指導教員として畜産学科の卒業研究指導に関わることで、個々の学生は専任教員２人による指導体制となる。学生の希望に合わせた細やかな指導を目指して、学生には自身の研究テーマや研究計画の策定から遂行、論文等の作成に至るまでの綿密な研究指導を行う。畜産学・獣医学教育の特徴は、講義室での講義や研究室での実験にとどまることなく、様々な特色や能力を持つ動物を直接観察し、家畜・動物の飼養と健康管理、生産技術の一端を体験することが重要とされている。したがって、統合的な実験科目である卒業研究論文の研究では、本学部附属の総合動物実験施設が有する動物福祉に配慮された最先端の飼育管理施設や実験検査機器を活用するだけなく、附属牧場等で飼育管理される動物を活用した畜産学に特徴的なフィールド研究を推進する。自治体や畜産業界等と数多く連携している附属動物病院の各種センターや附属越境性動物疾病制御研究センターの機能も活用して、異分野を含む産学官連携事業や研究等に学生を積極的に参画させ、成果を得る喜びの実体験を通じて、国内外の畜産が抱える難題解決に積極的に取り組む姿勢を育む。

２．卒業要件

共通教育科目の卒業要件単位数30単位以上、専門教育科目の必修科目68単位、選択科目が26単位以上となっており、合計124単位以上を履修して単位を取得することを卒業要件とする。

○卒業要件単位数表

コース名						単位数	外国人留学生
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーⅠ			2	2
			初年次セミナーⅡ			2	–
			大学と地域			2	2
			体育・健康		理　論	1	1
					実　習	1	1
			情報活用			2	2
		教育科目グローバル	英　語			6	6
			異文化理解入門			2	2
		日本事情日本語・	日本語			—	4
			日本事情			—	(4) 注1
	必修科目単位数小計					18	20
	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目	人文・社会科学分野	初修外国語	—	–
					選択科目	4	4
				自然科学分野	実験科目	—	–
					選択科目	4	4
					基礎教育入門科目	–	–
			教養科目活用	統合Ⅰ（課題発見）		4	4
				統合Ⅱ（課題解決）			
			自由選択科目			—	–
	選択科目単位数小計					12	12
共通教育科目単位数計 ❶						30	32
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目				12	12
		専門基礎科目				56	56
	選択科目	専門応用科目				26	26
専門教育科目又は専門科目単位数計 ❷						94	94
合計単位数 （❶＋❷）						124	126

（注1）日本事情（4単位）は、人文・社会科学分野（選択科目）または、教養活用科目（統合Ⅰ・統合Ⅱ）の単位に読み替えることができる。

３．履修モデル　　（参考資料13～15頁）

養成すべき人材を見据え、学生が持つ異なる知識、能力、経験等のバックグラウンドと学生自らが描く畜産キャリアデザインを活かすように、また、定められた教育課程において適切な科目を選択・履修できるよう、教員によるきめ細やかな履修指導を行う。そのため、履修指導教員と主・副指導教員等は学生と随時意見交換を行う。

＜履修モデル例１：畜産生産系選択履修モデル＞

専門応用科目の中から、動物生殖工学、草地利用学、スマート畜産論、家禽生産学、家畜人工繁殖学実習の６単位を選択し、さらに他の専門応用科目の21単位以上を選択して履修する。畜産行政や農業協同組合において家畜生産技術者としての進路を目指す。

＜履修モデル例２：畜産化学系選択履修モデル＞

畜産物利用学、食品科学・飼料資源化学概論、畜産物高度利用学、ミートジャッジングの８単位を選択し、さらに他の専門応用科目の19単位以上を選択して履修する。畜産行政や企業（食品・飼料・医薬品）において畜産物や加工食品等の評価分析開発に関わる技術者を目指す。

＜履修モデル例３：獣医療系選択履修モデル＞

動物臨床検査学、動物医療看護概論、動物看護学各論、動物内科学、動物外科学、適正飼養指導論、動物生活環境学、動物臨床検査学実習、動物看護学実習、産業動物治療学実習、動物医療総合実習の21単位を選択し、さらに他の専門応用科目の６単位以上を選択して履修する。畜産行政・農業共済組合・動物医療・動物薬企業・動物園等において獣医師と協働する技術者としての進路を目指す。

Ⅵ．企業実習（インターンシップを含む）や学外実習を実施する場合の具体的計画

共同獣医学部畜産学科では選択科目として「インターンシップ研修」を配置している。従前の農学部農業生産科学科畜産科学コースにおいて研修受入れの実績があり、改組後の受入れについて承諾又は内諾が得られた事業所の名称、所在地及び受入人数について、下表に示す。

これら事業所は、長きにわたり多くの学生の受入実績があり、受入れの学生数や日程等の調整を担当する窓口教員をそれぞれ配置し、研修について緊密な連携体制が構築されている。新規の事業所の追加及び事業所の都合による受入停止や人数変更が生じる場合のために、窓口教員が学生と受入先とのマッチングを毎回確実に行う。また、研修先にて指導にあたる指導員は実務経験者であるが、共同研究等においても連携しており、窓口教員を介して学部教育に関する研修を実施し、非常勤講師又はゲスト講師として教員としての質を担保する。受講生に対しては、畜産学科又は他学部との共同で開講される事前講習を通じて、実習の心構えやマナー、留意点等について学ばせ、また、事後講習も実施し、就業姿勢を再確

認させる。これら事前・事後講習（グループワーク）の講師は本学のキャリア形成支援センターの教職員が担当する。事業所等において、５日以上（遠隔参加も含む）の研修受講をもってインターンシップ研修（１単位）を単位認定する。成績の評価には、事前・事後講習の受講及び研修レポートを包含し、畜産学科の教務担当教員が成績評価基準に従って評価し単位認定する。

畜産学科では１・２・３年次に、それぞれ畜産キャリア形成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義科目を配置している。これらの授業では、科目担当教員がゲスト講師として招聘した学外の畜産分野及び畜産業及び関連事業者の専門職員の実務を講義させ、学生らの畜産業に関する視野を広め、将来のキャリアデザインを真摯に考察させる。インターンシップ研修は、畜産キャリア形成Ⅰ～Ⅲの受講を経て、学生自身が興味を惹かれた分野における実務を体験させることを目的としている。

表．インターンシップ研修受入先一覧

事業所名	所在地	受入数
①日本有機株式会社	鹿児島県曽於郡末吉町諏訪方 4122	１人
②橋口農園	鹿児島市川上町 3334-4	若干人
③ノガミ産業	鹿児島市和田 2-34-1	１人
④長崎県畜産試験場	長崎県南高来郡有明町湯江丁 3600	若干人
⑤佐賀県畜産試験場	佐賀県武雄市山内町宮野 23242-2	若干人
⑥福山市立動物園	広島県福山市芦田町福田 276-1	１人
⑦上野動物園	東京都台東区上野公園 9-83	１人
⑧多摩動物公園	東京都日野市程久保 7-1-1	１人
⑨東山動物園	名古屋市千種区東山元町 3-70	１人
⑩鹿児島県経済農業協同組合連合会	鹿児島市鴨池新町 15 番地	１人
⑪熊本県畜産農業協同組合	熊本県熊本市東区桜木 6 丁目 3-54	１人
⑫鹿児島市平川動物公園	鹿児島県鹿児島市平川町 5669-1	１～２人
⑬三瀬ルーベル牧場どんぐり村	佐賀県佐賀市三瀬村杠 2234-67	若干人
⑭宮崎県畜産試験場	宮崎県西諸県郡高原町広原 5066	２人程度
⑮大分県畜産試験場	大分県竹田市久住町大字久住 3989-1	２人程度
⑯鹿児島県肉用牛改良研究所	鹿児島県曽於市大隅町月野 2200	若干人
⑰鹿児島県畜産試験場	鹿児島県霧島市国分上之段 2440	若干人
⑱日本食肉格付協会鹿児島事業所	鹿児島県鹿児島市下福元町 7852	若干人
⑲株式会社南日本情報処理センター	鹿児島市東開町 4-104	若干人
⑳日清丸紅飼料株式会社総合研究所	栃木県那須塩原市井口 1242-5	数人

Ⅶ. 取得可能な資格

家畜人工授精師、食品衛生管理者・監視員（任用資格）、飼料製造管理者（任用資格）、食鳥処理衛生管理者（任用資格）、動物看護師（受験資格）等の課程認定を目指している。資格または受験資格取得に求められる認定科目を設定し、積極的な資格取得につながるように、履修指導を行う。

（１）家畜人工授精師（国家資格、受験資格）
（２）食品衛生管理者及び食品衛生監視員（国家資格、任用資格）
（３）食鳥処理衛生管理者（国家資格、任用資格）
（４）飼料製造管理者（国家資格、任用資格）
（５）愛玩動物看護師（国家資格、受験資格）
（６）実験動物１級技術者（民間資格、認定資格）

Ⅷ. 入学者選抜の概要　　（参考資料 16、17 頁）

１．アドミッション・ポリシー

共同獣医学部では、発展・進化する獣医・畜産科学に取り組む知識欲と探求心、これを実践し活用する論理性と創造力及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた学生を求め、以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

【共同獣医学部のアドミッション・ポリシー】

（１）求める人材像

発展・進化する獣医科学及び畜産科学に取り組む知識欲と探求心、これを実践・活用する論理性と創造力、及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求めている。

① 獣医師の幅広い職責について理解し、獣医学を志す明確な目的意識を有する人
② 動物を慈しみ、動物生命科学研究によって畜産資源の安定供給と安全性確保に貢献する目的意識のある人
③ 自然科学、人文・社会科学及び語学に関する基礎教科を満遍なく学習し、獣医学・畜産学の知識や技術を充分に理解、修得するための基礎学力を身に付けている人
④ 人と動物の健全な共生社会実現のために積極的に取り組む意思を有し、社会的にコミュニケーションがとれる人

共同獣医学部畜産学科では、学部のアドミッション・ポリシーに整合させ、畜産科学に取り組む知識欲と探求心及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求める。

【共同獣医学部畜産学科のアドミッション・ポリシー】

（１）求める人材像

畜産科学に取り組む知識欲と探求心及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求めている。

① 動物を慈しみ、動物生命科学研究、動物生産、食料生産及び環境保全に強い関心を持って、将来、畜産分野で活躍をめざす明確な目的意識のある人

② 自然科学に幅広い知識と外国語の基礎学力を備え、専門知識・技能を活用して課題解決に取組むための思考力・判断力・表現力の修得に意欲のある人

③ 人と動物の健全な共生社会実現に積極的に取り組む意思を有し、社会的コミュニケーションがとれる人

（２）入学前に身に付けておいて欲しいこと

大学入学共通テスト及び個別学力検査等で課す教科・科目における基礎学力と思考力が必要になる。また、面接においては自分の考えを明確に表現する能力を身に付けておく必要がある。

（３）入学者選抜の基本方針

① 一般選抜（前期日程）：大学入学共通テストで５教科７又は８科目を課すとともに、個別学力検査で数学（数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ）、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物・地学から１科目）、英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ）のうちの２科目を課し、基礎学力、思考力を評価する。

② 一般選抜（後期日程）：大学入学共通テストで５教科７又は８科目を課すとともに、個別学力検査では面接調書を作成して面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、表現力、適正を評価する。

③ 総合型選抜（自己推薦型選抜）：大学入学共通テストで３教科５又は６科目を課すとともに、個別学力検査等で講義型試験及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

④ 学校推薦型選抜Ⅰ（専門高校等対象）：農業科，農業経営科，畜産科，生物工学科あるいはこれらに準ずる学科、もしくは総合学科を対象に、高等学校の学習成績概評がＡ以上の者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を評価する。

⑤ 学校推薦型選抜Ⅰ（普通科等対象）：高等学校等において、理科または畜産・食品関連をテーマとした研究に関する活動を主体的に取り組み、学校内外いずれかで成果発表（インターネットを通じた発表も可）を行った経験を有する者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文とプレゼンテーションを課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

⑥ 国際バカロレア選抜：高い IB フルディプロマのスコアを有する者について、書類審査及び面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、英語能力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

⑦　私費外国人学部留学生選抜： TOEFL 又は TOEIC 及び日本留学試験を課し、さらに面接用作文を作成して面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、志望動機、勉学意欲、英語能力を総合的に評価する。

志願者には、入学前に、大学入学共通テスト及び個別学力検査等で課す教科・科目における基礎学力と思考力、面接においては自分の考えを明確に表現する能力を身に付けておくことを求めている。

２．入学者選抜の基本方針

共同獣医学部畜産学科では、入学定員 30 人に対して次のような選抜を行う。

（１）一般選抜（前期日程、募集人員 14 人）：大学入学共通テストで５教科７又は８科目を課すとともに、個別学力検査で数学（数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ）、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学から１科目）、英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ）のうちの２科目を課し、基礎学力及び思考力を評価する。

（２）一般選抜（後期日程、募集人員５人）：大学入学共通テストで５教科７又は８科目を課すとともに、個別学力検査では面接調書を作成して面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、表現力及び適正を評価する。

（３）総合型選抜（自己推薦型選抜、募集人員５人）：大学入学共通テストで３教科５又は６科目を課すとともに、個別学力検査等で講義型試験及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力及び適正を総合的に評価する。

（４）学校推薦型選抜Ⅰ（専門高校等対象、募集人員４人）：農業科、農業経営科、畜産科、生物工学科あるいはこれらに準ずる学科、もしくは総合学科を対象に、高等学校の学習成績概評がＡ以上の者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力及び適正を評価する。

（５）学校推薦型選抜Ⅰ（普通科高校等対象、募集人員２人）：高等学校等において、理科又は畜産・食品関連をテーマとした研究に関する活動を主体的に取り組み、学校内外いずれかで成果発表（インターネットを通じた発表も可）を行った経験を有する者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文とプレゼンテーションを課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、適正を総合的に評価する。

（６）国際バカロレア選抜（募集人員 若干人）：高い IB フルディプロマのスコアを有する者について、書類審査及び面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、英語能力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力及び適正を総合的に評価する。

（７）私費外国人学部留学生選抜（募集人員 若干人）： TOEFL 又は TOEIC 及び日本留学試験を課し、さらに面接用作文を作成して面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、志望動機、勉学意欲及び英語能力を総合的に評価する。

Ⅸ．教員組織の編制の考え方及び特色　　（参考資料 18、19 頁）

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、教員組織と教育研究組織に分離し、新たに「学術研究院（教員組織）」を設置している（平成 27 年４月）。学術研究院は、５つの「学域」と 14 の「学系」から成り、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じて組織している。学術研究院長には学長を充て、学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行う。共同獣医学部畜産学科設置にあたり、現在の農学部農業生産科学科畜産科学コースを担当する教員組織は、学術研究院農水産獣医学域農学系から獣医学系へ配置換となり、畜産学教育課程を主担当とするが、改組に伴う農学教育への不利益が生じないように、配置換後も、農学教育課程に新設される畜産系の授業科目を担当する（副担当）。

学術研究院農水産獣医学域獣医学系は、定数 42 人に対して現員 38 人の専任教員から構成され、その内訳は、基礎獣医学講座（現員６人）、病態予防獣医学講座（現員８人）、臨床獣医学講座（現員７人）及び附属施設等（現員 17 人）となっている。改組によって、畜産科学講座（現員８人）の専任教員が獣医学系に配置換えとなることで、定数 50 人に対して 46 人（教授 19 人、准教授 15 人、助教 12 人）の専任教員体制となる。さらに、共同獣医学研究科の特任教員１人（外国人准教授）及び動物病院の特任教員３人（助教）が加わることによって、50 人の常勤教員（専任教員及び特任教員）が共同獣医学科（６年制）及び畜産学科（４年制）の教育を担う。なお、共同獣医学科（６年制）は山口大学共同獣医学部獣医学科との共同教育課程に従って教育を行う。教員組織は、共同獣医学部のカリキュラム・ポリシーに示す基礎／応用／臨床獣医学系科目及び畜産学系の科目区分に対応した大講座制となっており、これに動物病院、越境性動物疾病制御研究センター及び附属牧場に所属する教員が協働して実践的な教育を可能としている。

共同獣医学部畜産学科の専門教育課程は、カリキュラム・ポリシーとそれに対応する教員体制とを完全に整合させて、主要な授業科目には専任教授又は准教授を配置している。専門基礎科目（２年次までの必修科目）は、畜産科学講座、基礎獣医学講座及び病態予防獣医学講座の教員が担当する。３年次以降の授業科目で学生の将来の進路希望に応じて授業科目を選択して履修する専門応用科目では、畜産生産系技術者履修モデル及び畜産化学系技術者履修モデルの授業科目を畜産科学講座が、獣医療系技術者履修モデルの授業科目を臨床獣医学講座が担当する。さらに、専門的な畜産技術者及び獣医療技術者を養成するために、附属牧場や動物病院における特色ある実践教育を担当する実務経験の豊富な教員（特任教員等）を積極的に活用する。

共同獣医学部畜産学科設置時（令和６年４月）における畜産学科教育課程を担当する畜産科学講座専任教員８名の年齢構成は、20 歳代１人、30 歳代１名、40 歳代２人、50 歳代４人となっている。畜産学科教育課程を担当する共同獣医学科（基礎獣医学講座、病態予防獣医学講座、臨床獣医学講座）の専任教員 38 人の年齢構成は、30 歳代５人、40 歳代 14 人、50 歳代 13 人、60 歳代６人であり、学部全体の専任教員 46 人の年齢構成は、20 歳代１人、30 歳代６人、40 歳代 16 人、50 歳代 17 人、60 歳代６人となる。

また、完成年度（令和９年度）３月末時点では、畜産科学講座専任教員８名の年齢構成は 30 歳代２人、40 歳代１人、50 歳代３人、60 歳代２人である一方、共同獣医学科の専任教員 36 人は、30 歳代２人、40 歳代 12 人、50 歳代 15 人、60 歳代７人となり、学部全体では専任教員 44 人が、30 歳代４人、40 歳代 13 人、50 歳代 18 人、60 歳代９人となる。このように、設置時から完成年度まで 40～59 歳が主体となる指導教員組織となっており、学部における教育研究水準の維持向上、教育研究の活性化、研究指導及び高度な技術者養成には支障がなく、バランスの取れた構成となっている。

なお、国立大学法人鹿児島大学職員就業規則第 20 条において、「職員の定年は、満 60 歳とする。ただし、労務職員にあっては満 63 歳とし、教授、准教授、講師、助教及び助手並びに特例教員にあっては満 65 歳とする。」及び「定年による退職の日（以下「定年退職日」という。）は、定年に達した日以後における最初の３月 31 日とする。」とされている。完成年度までに共同獣医学科の専任教員２人が定年退職の予定となっており、速やかに補充する計画である。

Ｘ．研究の実施についての考え方、体制、取組

畜産学科では、家畜飼料の国内自給率増とともに、新たな付加価値のある畜産物の生産と消費拡大につながる畜産技術の開発と人材の養成を行うために、令和５年度経営戦略経費（学長戦略経費）によるスタートアップ支援を受けて機器整備を開始し、畜産物及び加工食品の理化学成分分析並びに食味官能評価に必要な研究設備の計画的な充実を図る。具体的には、共同獣医学部Ｂ棟１階に、畜産物分析評価エリア（物性測定室、機器分析室、食味評価室）を整備する。物性測定室には剪断力価計、破断強度計、ボンベ熱量計、脂肪融点測定計、一般成分分析器材を計画的に配置し、畜産物の物性測定と成分分析を行う。機器分析室には味認識装置、質量分析装置、HPLC、PCR、次世代シークエンサーを計画的に配置し、畜産物成分の高度精密分析やメタボミクスによる網羅的解析を行う。食味評価室には評価試験設備を配置し、技能研修を受けた人員による分析型官能試験で畜産物の美味しさを評価する。これらを整備した後、産学官連携による共同実験やリカレント教育を通じて学内研究者や学外技術者に分析・評価の各種手法を修得させ、分析結果に基づく旨味・美味しさ評価技術を導入・普及させていく。この分析・評価を委託事業化し、畜産業界からの委託収益増を図り、持続的な事業運営と研究機器の更新・拡大をめざす。食肉・畜産物の評価・加工・分析に関する実践的技術を総合的に身につけた過去にない新たな畜産技術者が輩出され、畜産・食品業界等における活躍の期待とニーズが高まるとともに、リカレント教育による畜

産人材のレベルアップを通じて、地域の基幹産業である畜産業の発展と進歩、競争力強化に貢献する。一方で、新たな分析技術の開発等の受託事業を継続・発展させて、恒久的な自己収入増を図り、施設設備更新にフィードバックして研究環境を充実させていく。

附属牧場では、周年放牧認証（日本草地畜産種子協会）を取得した広大な牧場を活用した教育実習の実施、畜産業界における課題（農家数減少による人材不足、高齢化）解決に向けたIoTを活用した生産性向上などの研究を行っている。また、アニマルウェルフェアの考え方に対応した肉用牛の飼養管理の導入やAAALAC Internationalが定める「教育と研究のための農業動物のケアと利用に関するガイド」に準じた附属牧場で飼育される教育研究用農場動物の利用プログラムの構築を目論むなど、我が国の未来型畜産を牽引する人材育成のための教育施設への大転換を構想している。令和４年度国立大学法人等施設整備事業計画（補正予算）を受けた実験研究棟の改築により、十分な広さと階高のある実習スペースが確保され、重機作業、大人数での効率的な実習、獣医学教育における実習等の多様な教育研究への展開、地域・畜産業界とのネットワーク強化を図る。これを契機に、技術職員と非常勤職員の業務体制を見直し、教員と一体となって教育研究に専念し、牧場を活用した教育研究を学内外あるいは異分野にまで拡げ、全国共同利用施設としての機能を高めていく。

技術職員は管理運営業務の中で、牛の飼養管理や草地管理に関連する技術関連研究を行うことが推奨され、牧場専任教員との協力関係の下、これまでに農場協議会や学会発表、農場研究報告などへの投稿も行ってきた実績もある。現在、入来牧場の技術職員は５名であり、それぞれ担当（繁殖、哺乳、育成、肥育、草地）を持って対応している。これらの担当は複数年で交代することで、最終的に牧場の管理業務全体を行えるような人材の育成が行われている。技術職員は、牧場の管理運営と共に、学生の実習教育や教員の研究活動補助に携わり、その他、必要に応じてイベント等の開催に協力することで、教育・研究・地域貢献に大きく寄与している。一方で、牧場の管理運営は、畜産農場経営に経験豊富な人材や獣医師を非常勤職員として採用し、経営コンサルテーションを委託化して、採算がとれ且つ教育研究に求められる機能を有した飼養形態と規模を維持する。また飼料自給率向上総合緊急対策事業等への申請により農業機械の設備更新・充実を図り、広大な土地を活用した牧草や家畜飼料用穀物の栽培生産・販売に取組み、自己収入増による牧場施設の補修や拡充を行い、研究環境を整備していく。

本学では、旧URAセンターが、令和４年４月より、南九州・南西諸島域イノベーションセンター 研究・産学地域連携ユニットに統合された。当該ユニットでは、本学研究者が国際的により高い水準で研究できるような各種研究者支援活動を実施している。

XI. 施設、設備等の整備計画

１．教室等施設・設備

鹿児島市中心部に位置する三つのキャンパスのうち、郡元キャンパス（敷地面積351,918㎡、建築面積63,618㎡、延面積187,130㎡）は、本学の基幹キャンパスとして教育研究の中核を担っている。共同獣医学部は、郡元キャンパスの北東エリアの施設を利用している

（獣医学部単独で管理する建物の延床面積は 10,269.1 ㎡）が、連合農学研究科及び農学部と一部共用となっている。共同獣医学部畜産学科（入学定員 30 人、収容定員 120 人）の教育研究では、既存の農・獣医学部の施設・設備を継続して有効活用する。加えて、実践的な畜産教育のために附属施設を中心に施設・設備の更なる充実を進めていく計画である。

共同獣医学部畜産学科専任教員の教授、准教授、助教には専任教員研究室が割り当てられる。実験室・演習室・実習室は別にあり、学部教育が実施される。

設備等では、主要な講義室には、パソコンを用いた講義が円滑に行えるようプロジェクタ、スクリーンなどが設置され、教育内容にふさわしい環境を整備する。

２．研究室等

各研究室毎に、研究分野や研究テーマ別に外部資金、教育施設費等を有効に活用して種々の実験装置・計測装置等を導入する。

３．施設の整備計画

郡元キャンパスにおいては畜産食品教育研究センター（仮称）の整備を、また、附属入来牧場においては、IoT と衛星データを組み合わせた高度先端管理システムによる教育体制の整備を検討中である（概算要求予定）。

（１）畜産食品教育研究センター（仮称）

食味官能評価や畜産物の化学分析に関する実習や実験を通じて、分析手法と分析結果に基づく「うま味・美味しさ」評価の技術を修得させるために、「未来型畜産を創造する人材養成のための畜産物の評価・加工・分析技術の実践的総合教育プロジェクト」を計画している。この事業では、枝肉→畜産物加工→評価分析→衛生管理をシームレスに学習できる実践的教育施設を整備する。施設には、①枝肉解体エリア、②加工調理エリア、③分析評価エリアの３実習エリアを配置し、家畜種（牛肉・豚肉・鶏肉）による美味しさの特長の可視化、ブランド家畜の美味しさの評価と付加価値の可視化、飼養管理方法による食肉の美味しさの変化の可視化とコンサルティング、畜肉特有の美味しさ成分の持続的なモニタリング、食肉の熟成や加工における美味しさデザインに関するコンサルティング及びアニマルウエルフェアと肉質との関連性に関する実習教育を行う。一般生産者、農業協同組合や飼料会社、食肉加工・流通・小売販売・輸出等の民間事業者、レストラン及び畜産試験研究機関を対象に、家畜飼料、畜産物（食品）、ペットフード等の成分分析と評価に関する受託事業により、自己収益による持続的な運営を目指す。

（２）附属牧場（入来牧場）

経年 54 年の畜舎（1910 ㎡）をスペースの集約化と効率化を図りながら保有面積を約 15%減じる一方で実習スペースを拡大させ、放牧地 ICT 環境によりスマート管理される牛を当該施設に集牧・健康確認する施設へと改築する計画案を示した。既存の畜舎を、動物・従事者・学習者のバイオセキュリティに十分配慮して、教育研究に必要な動物種及び数を維持管理する教育研究施設へと整備する。農学・獣医学連携に止まらず、IPE 機能

（Interprofessional Education:専門職連携教育）や民間の情操教育・食育・生涯学習フィールド機能を充実しており、畜産学を通して地域課題に根差した教育研究施設を目指す。穀物飼料に過度に依存しない家畜の飼養システムの開発、アニマルウエルフェアを基盤とした畜産システムの実現、耕作放棄地の利活用、過疎地が活性化する環境保全型畜産モデルの構築、硬直した霜降り肉のマーケットから消費者に理解を得られるような倫理的な畜産物生産へのシフト、コスト低減によるビジネスとしての農家への利益の循環向上のために、「未来型畜産を創造する人材養成のための持続可能な放牧型畜産モデル農場を目指した実践的イノベーション教育プロジェクト」を計画する。ここでは、１）IoT ネットワークシステムによる放牧牛飼養管理システムを用いた高度畜産モデルによる教育体制、及び２） 地球規模での IoT と衛星データを組み合わせた高度先端管理システムによる教育体制を構築する。

３．図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、共同獣医学部が配置されている郡元キャンパスを含めて各キャンパス（郡元、桜ヶ丘、下荒田）に図書館を有している。中でも郡元キャンパスにある中央図書館を中心に教育・研究に必要な学術資料を鹿児島大学附属図書館資料収集方針に基づき収集し、利用に供している。データベースとして Scopus,CliNii、医中誌 Web 等が利用可能で、その他、検索ツールとしてディスカバリーサービスを導入しあらゆる種類の文献を漏らさず探索可能とする環境を整備している。蔵書数は、約 123 万冊（うち、外国図書約 34 万冊）、冊子体の学術雑誌約 43,000 種類、電子ジャーナル約 6,000 タイトル（うち外国の電子ジャーナル約 6,000 タイトル）、電子ブック約 10,800 タイトルを有している。一例として、獣医学、畜産系の電子ジャーナルは Journal of Veterinary Internal Medicine、British Veterinary Journal、Veterinary Immunology and Immunopathology、Animal Feed Science and Technology、Applied Animal Behaviour Science 等、電子書籍は世界的に定評のあるプラットフォームである Proquest ebook Central を導入し前述の資料収集方針に基づき獣医学系の電子書籍も順次整備している。

また、規模は、中央図書館が 915 席（床面積 12,697 ㎡）、桜ヶ丘分館 202 席（床面積 2,007 ㎡）、水産学部分館（下荒田キャンパス）130 席（床面積 795 ㎡）である。グループ学習室、研究個室、ラーニングコモンズを設置し教育研究を推進するための場所を提供している。情報リテラシー支援室を設置し、教員や学生からの要望に応じて文献検索利用ガイダンスを実施している外、中央図書館ではレファレンス専用のカウンターを設けて日常的に学術情報収集の相談に応じる体制を整えている。開館時間は平日８時 30 分から 21 時 30 分まで、土・日曜日 10 時から 18 時までである。

Ⅻ. 管理運営及び事務組織

（１）共同獣医学部運営会議

学部の運営上の重要事項（予算・決算に関する事項、組織及び教員の評価に関する事項、兼職及び兼業の審査等に関する事項、施設の管理運営に関する事項、山口大学の共同教育課程との協議に関する事項等）を審議するため、学部長、副学部長、学部長補佐、動物病院長、越境性動物疾病制御研究センター長、牧場長、学科長、獣医学教育改革室長、農学部・共同獣医学部等事務部長、共同獣医学部学生協議会議長及び共同獣医学部学生協議会副議長等で組織する運営会議を置く。運営会議は、原則として月１回の定例のほか、必要に応じて議長が招集する。

（２）共同獣医学部教授会

学部の教育研究に関する重要な事項（学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与、教育研究に関する重要な事項等）を審議するため、専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する教授会を置く。教授会は、原則として月１回開催とする。

（３）獣医学系会議

学部の人事に関する事項（教員の中長期的人事計画の策定に関する事項、教員の採用及び昇任等具体的人事その他教員の教育研究業績の審査等の実行に関する事項、学系に関する規則の制定及び改廃等）を審議するため、獣医学系の専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する学系会議を置く。学系会議は、学系長が必要と認めるときに開催する。

（４）各種委員会

学部の業務を円滑に処理するため、教務委員会、学生生活・就職委員会、入試委員会、広報・情報委員会、国際交流委員会、ファカルティ・ディベロップメント委員会、放射線障害防止委員会、動物実験委員会、共用試験実施委員会、総合動物実験施設管理運営委員会、バイオセキュリティ委員会、ICT 委員会、男女共同参画推進委員会及び施設等有効利用検討委員会を置く。

（５）共同獣医学部諮問会議

諮問会議は、獣医学に対する社会からの要請を受け止め、獣医師養成と地域社会貢献の質向上を図ることを目的とする。諮問会議は、学部長、副学部長、学部長補佐、動物病院長、越境性動物疾病制御研究センター長、牧場長、鹿児島県の職員、鹿児島市の職員、鹿児島県獣医師会に所属する者、鹿児島県農業共済組合に所属する者、鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会に所属する者、民間企業の経営者をもって組織する。諮問会議は、共同獣医学部に関する人材養成、教育カリキュラム、地域連携・社会貢献、その他、教育組織及び運営に関する重要事項について、学部長の諮問に応じて審議し、及び学部長に対して助言又は提言を行う。諮問会議に議長を置き、学部長をもって充て、議長は諮問会議を主催する。諮問会議は、原則として年１回以上、学部長が必要と認めるときに開催する。

（６）共同獣医学部学生協議会

共同獣医学部における教育、学生生活等に関し、学生の意見を学部運営に反映させることを目的に学生協議会を設置し、獣医学科及び畜産学科の各学年の学生それぞれ２名ずつを委員にあて組織する。学生協議会に議長を置き、委員の互選によって定め、①本学部における教育に関すること、②本学部における学生生活に関すること、③本学部に関し、学生協議会が必要と認めること、④前各号のほか、学部長から協議を付託された事項について、年４回以上の会議を開催する。学生協議会にはアドバイザーを置き、各学科の最高学年の学年担任をもって充て、学生協議会において、議案に関する情報の提供、議事の進行の補助、協議に当たっての助言その他学生協議会の円滑な進行に必要な業務を行う。学生協議会は、第４の規定に基づき協議した事項について、その結果を学部長に報告し、学部長は、第７の規定に基づき報告を受けたときは、当該事項を学部運営会議において報告し、又は検討しなければならない。また学部長は、前項の報告又は検討の結果、必要と認めるときは、当該事項を教授会において報告し、又は検討し、若しくは常設委員会その他の適切な委員会に検討を付託する。学部長は、検討された結果を、学部運営に反映させるよう努力しなければならない。

（７）牧場会議

附属牧場（入来牧場）の運営に関する事項を審議するため、牧場会議を置く。牧場会議では、牧場の管理運営、牧場を利用した畜産学及び獣医学教育、教員及び職員の人事、及び予算・決算及び概算要求に係る事項を審議し、必要に応じて運営会議に付議する。牧場会議は、牧場長、副牧場長、副学部長、牧場専任教員、農学部・共同獣医学部等事務部長、その他牧場会議が必要と認めた者（学生を含む。）をもって構成する。牧場会議は、原則として月１回開催する。

（８）事務組織

共同獣医学部における事務は、農学部・共同獣医学部等事務部総務課（総務係、経理係、契約係、農場事務係及び動物病院事務係）、学務課（教務係及び学生係）、学科事務室で担当し、鹿児島大学農学部・共同獣医学部等事務分掌規則において定められる事務を処理する。

XIII．自己点検・評価

１．大学としての対応　https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/hyouka.html

（１）　法人評価：各国立大学法人は、各法人の中期目標・中期計画（６年ごと）を策定し、４年目終了時及び中期目標期間終了後、実績についての報告書を作成し、文部科学省に置かれた国立大学法人評価委員会の評価を受審することになっている。第１期中期目標期間（平成 16～21 年度）に係る業務の実績に関する全体評価では、平成 16～19 年度までの評価では、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」であり、さらに平成 20、21 年度の状況を踏まえた結果、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」という評価を受け公表している。第２期中期目標期間（平成 22～27 年度）に係る業務の実績に関する全体評価では、業務実績の

状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」であるという評価を受け公表している。また第３期中期目標期間（平成 28～令和３年度）に係る業務の実績に関する全体評価（４年目終了時評価）においても、業務実績の状況は、すべての項目で中期目標の達成状況が「計画以上の進捗」、「順調」又は「おおむね順調」という評価を受け公表している。

（２）　機関別認証評価：国公私全ての大学、短期大学、高等専門学校においては、７年以内に一度、文部科学大臣の認証を受けた機関による第三者評価（認証評価）を受審することが義務付けられている。本学では、平成 19、26 年度に引き続き、令和３年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の実施する大学機関別認証評価を受審し、「鹿児島大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している。」との評価を受け、結果を公表している。

（３）　自己評価：大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとしている。本学では、大学運営評価の効率化と実質化を図るため、平成 29 年度に自己評価制度の見直しを行った。平成 28 年度から令和２年度までの自己評価書及び構成員評価の結果を、https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/hyouka.html に公表している。

２．部局としての対応　　http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/jfvm/ninsyou-hyouka.html

本学共同獣医学部は教育システムや施設の継続的な改善と質の向上を行い、教育の品質保証のために国内外の外部認証評価を受審している。認証評価は、提出された自己評価報告書に基づいた実地調査と面接等、多方面かつ厳正な調査を評価機関から受け、基準を満たすことで判定される。これら認証を取得することは、学部の教育や施設が極めて高い水準にあり、国際的に通用する人材の育成を行っていることを保証する根拠となっている。

（１）国内の分野別認証評価：公益財団法人大学基準協会（JUAA）は、日本の高等教育の質の向上のために機関別認証評価と分野別認証評価を行っている。分野別認証評価では、各分野の教育プログラムの水準の向上を図るとともに、認証を通じて社会のニーズや国際的な水準に適合していることを保証することを目的として、評価を行っている。本学共同獣医学部は、平成 31 年月から国立大学法人で初めて JUAA の獣医学教育認証を取得した（有効期間は７年間）。またこの認証取得は、日本における共同学部（共同教育課程）としても初である。評価結果は以下の URL に公表している。
http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/images/jfvm/pdf/ninsyou/JUAA_Result%20of%20the%20Evaluation.pdf

（２）国外の分野別認証評価：欧州獣医学機関協会（EAEVE）は、米国獣医師会教育審議会（AVMA-COE）と並ぶ国際的な獣医学教育認証機関であり、獣医学教育の質と水準の保証とその向上を目的として、①卒業する獣医師と行われている獣医療サービスは信頼できるか、②学生の受ける教育が一定の水準に到達しているか、③教育カリキュラムや施設設備が定められた基準に合致しているか、について公的な外部評価機関と

して品質保証を行っている。本学共同獣医学部は、令和元年６月から日本を含めたアジアで初めてEAEVE認証を取得した（有効期間は７年間）。評価結果は以下のURLに公表している。

http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/images/jfvm/pdf/ninsyou/ECOVE%20Decision%20VetJapan%20South%20FV.pdf

（３）国際実験動物ケア評価認証協会(AAALAC International)による認証評価:同協会は、動物のケアと使用に関するプログラムの認証、評価を行う民間の非営利団体であり、医学や科学目的で使用される動物の人道的な取扱いを推進し、動物実験の妥当性を評価する唯一の国際認証機関である。本学共同獣医学部の総合動物実験施設は、2017年６月からAAALAC International認証を取得している。評価結果は以下のURLに公表している。

http://www.vet.kagoshima-u.ac.jp/images/jfvm/pdf/ninsyou/achievement-of-accreditation_s.pdf

XIV．情報の公表

インターネット上に大学のホームページを設けており、大学の理念と中期目標や計画などの大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数などの大学の基本情報を公開している。

鹿児島大学トップページ＞大学紹介＞教育情報の公表

https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html

（１）大学の教育研究上の目的に関すること

本学は、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって学術文化の向上に寄与する有為な人材を育成することを目的としている。

HPにおいて、大学憲章、教育目標、教育研究上の目的を公表している他、本学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー)、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー)、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）について公表している。

（２）教育研究上の基本組織に関すること

鹿児島大学の起源は、藩学造士館（1773年）や医学院（1774年）にさかのぼり、以降、第七高等学校等の高等教育機関の伝統を受け継ぎ、1949年に新生国立大学・鹿児島大学が発足した。現在は、９学部（平成24年４月には全国初となる共同学部「共同獣医学部」が開設）と９大学院からなる総合大学である。

HPにおいて、沿革、組織図、各学部・研究科の概要について公表している。

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

鹿児島大学の教職員に関して、HP において、教員組織、教職員数、教員年齢構成、研究者総覧、鹿児島大学リポジトリについて公表している。

（４）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

【本学のアドミッション・ポリシー】

① 鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人

② 人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人

③ 知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人

④ ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

HP において、各学部・研究科のアドミッション・ポリシー、入学者数・収容定員・在学者数、卒業・修了者数、卒業・修了者の進路状況について公表している。

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

HP において、鹿児島大学の各学部・研究科の授業目的、授業計画等について、シラバスにて公表している。併せて、鹿児島大学の年間行事、教務日程について公表している。

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- 成績評価に関するガイドライン：成績評価に関する全学ガイドライン及び各学部、研究科のガイドラインを公表している。
- 学修成果に係る評価基準：各学部・研究科の学修成果、成績評価基準について、シラバスにて公表している。
- 卒業・修了認定基準：各学部・研究科を卒業・修了するにあたり必要となる単位数等について公表している。
- 学位論文に係る評価基準：鹿児島大学における学位論文に係る評価基準について公表している。
- 取得可能な学位：鹿児島大学において授与する学位について公表している。
- 取得可能な資格：鹿児島大学において取得可能な資格等について公表している。
- 社会人履修証明プログラム：鹿児島大学が実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラムについて公表している。

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- 交通アクセス及びキャンパスマップ：鹿児島大学への交通アクセスや各キャンパスの情報について公表している。
- 学生の課外活動：鹿児島大学の公認団体の情報について公表している。
- 各施設等の紹介：鹿児島大学の各施設等（附属図書館、情報基盤統括センター、生協、食堂・売店・ATM 等、学生寮）の情報について公表している。

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

鹿児島大学の授業料、入学料等の費用（入学時必要経費、授業料、寄宿料、授業料免除及び入学料免除・徴収猶予、奨学金、施設利用料）に関する情報について公表している。

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

鹿児島大学が行う学生支援全般に関する情報（ピア・サポート、学生なんでも相談室、障害学生支援センター、保健管理センター、キャリア形成支援センター、ボランティア支援センター、グローバルセンター、問い合わせ先一覧、学生表彰制度）を公表している。

また、以下の各ページ等において、その他の情報についても公表している。

(10) その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

- 鹿児島大学規則集　https://www1.g-reiki.net/kagoshima-u/reiki_menu.html
- 設置に関する情報等
  https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/houjin-sonota-jouhou.html
- 評価・監査に関する情報　https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/hyouka.html

XV．　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

１．大学としての取組

学士力の基盤となる能力を身に付けさせる教育の推進に向けて、令和２年４月１日に就職支援センターはキャリア形成支援センターに改組し、全学の教育改革を推進するための体制を整備した。また、高等教育研究開発センターでは定期的に開催している教職員を対象としたFD講演会や教育方法の改善に関する研修会のほか、具体的には以下の取り組みを実施しており、共同獣医学部畜産学科においても、これらの取組を活用することで教育内容の改善・充実を行う。

（１）　学生が学習活動について自己評価等を行うことを目的とした、ポートフォリオシステムの運用を平成29年度新入生から開始し、学生が「一年を振り返って」、「これからの大学生活について」、「卒業後の将来の夢、チャレンジしたいこと」の３項目について入力し、それに対して授業担任教員がフィードバックを行っている。

（２）　各学部にて学生による授業評価アンケートを実施し結果の分析を行い、改善が求められた授業科目の担当教員に対し改善に努めるよう個別に通知するなど教育方法等改善を行っている。また分析結果は、FD報告書に掲載しホームページで公開している。

（３）　本学が加盟している大学IRコンソーシアムの学生調査にて、学生の学習習慣や学習成果を毎年把握している。調査結果は高等教育研究開発センターにおいて分析し結果報告を取り纏めており、全学FD委員会で学部毎の傾向を報告するなど、教育改善に役立てている。

（４）　本学全体でのベストティーチャー最優秀賞受賞者に、鹿児島大学版FDガイドの執筆を依頼し、「ベストティーチャーに聴く授業の工夫」と題して、様々な良い工夫の事例をホームページや誌面を通じて広く公開している。

（５）　本学の魅力、入学前と入学後の印象、４年間の目標、教養教育の枠組み、学びのリテラシー、外国語教育に関して、各学部より推薦された１年生との意見交換を行い、教育改善につなげることを目的とした「学長と学生との懇談会」を開催している。

また、大学等の運営の在り方について一層の高度化及びこれを担う大学職員の資質能力の向上が求められていることから、本学では年度毎に学内研修計画を作成し、係員から管理職までの各職階に見合ったSD研修を計画的・体系的に実施している。具体的には、特定の階層で求められる基礎的な知識及び技能全般を習得することを目的とした「階層別研修」では、係長級職員を主な対象として、職務遂行に必要な能力を身に付けさせ、本学の管理運営の重要な担い手を育成することや、新規採用職員・若手職員に対して、職務遂行に必要な基礎的な知識や心構えを身に付けさせ、資質能力の向上及び職務に対する視野の拡大を図る研修を行っている。また、全職員が身に付けておくべき基礎的な知識及び技能を習得することを目的とする「底上げ型」の「基礎研修」では、情報セキュリティ、資金の適正な執行、ハラスメント防止、個人情報管理等に関して理解を深めている。大学職員としての専門的な知識及び技能を身につけることを目的とする「選択型・選抜型」の「スキルアップ研修」では、働き方改革・生産性向上、チームビルディング、英語研修、経営戦略、広報戦略等のテーマにおいて各資質向上に取り組んでいる。その他、自己啓発、福利厚生等を目的とした「特別研修」を実施している。これらの研修を通じて、職員の資質・能力向上を図っている。なお、研修にはｅラーニングを活用することで、多くの職員が受講できるよう工夫している。

２．部局としての取組

共同獣医学部においては、具体的には以下の取り組みを実施しており、共同獣医学部畜産学科においても、これらの取り組みを活用することで教育内容の改善・充実を行う。

（１）　卒業生・修了生を対象として、修学期間全体についての教育内容等に関する満足度調査を行っている。また、教育の質の改善に資することを目的として、卒業生・修了生の就職先機関を対象に、社会から求められるニーズ等のアンケート調査を実施している。

（２）　ベストティーチャー最優秀賞候補者による公開模擬授業を実施し、最優秀賞及び優秀賞を選出し表彰を行うとともに、教養教育の分野のベストティーチャー（最優秀賞及び優秀賞）による公開授業を行っている。新任教員は採用後３年以内に本公開模擬授業に参加することとしており、参加できない者に対しては、公開模擬授業の模様を録画したDVDを視聴させるなどの代替措置を講じている。

XVI.　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１．教育課程内の取組

本学では、教養教育科目において「キャリアデザイン」を開設しており、共同獣医学部畜産学科の学生が１年次に履修できるようにしている。本授業科目においては、在学中に学ぶべき授業科目や内容について、カリキュラムマップをもとに理解を深め、大学での学びが社

会で求められる能力にどのように活かされるかを考えるとともに、学部の特性に応じた講義や講演、種々のグループ活動、社会見学等を通して社会が求める人材像を知り、自らのキャリアや将来像を構想するための内容となっている。本科目を共同獣医学部畜産学科でも踏襲することで、初年次から学部での学修と職業との繋がりを意識できるよう教育に取り組む。

共通教育における学部横断型の「地域人材育成プラットフォーム」の３つの教育プログラムのうち、特に「かごしまキャリア教育プログラム」では、前述の「キャリアデザイン」がスタートアップ科目となっており、さらに地域志向科目や「社会人基礎力演習」、自治体や地元企業団体との連携に基づく「地域キャリア・インターンシップ」等の科目の履修を通し、学部を問わず地域の潜在的な可能性や課題を理解し、その解決及び地域活性化に貢献できる地域人材の育成を目指している。（別紙①及び「鹿児島キャリア教育プログラム」シラバス参照）

また、共同獣医学部畜産学科では、専門教育科目におけるキャリア教育科目として「畜産キャリア形成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「インターンシップ研修」を開設し、社会人による講演会やセミナーを通して、通常の授業では得られない実践的な経験や知見を学び、自身が社会の一員であることを自覚するとともに、社会の中で生活するということや働くことの意味を考えることで社会性を養う。インターンシップ研修は、畜産キャリア形成Ⅰ～Ⅲの受講を経て、学生自身が興味を惹かれた分野における実務を体験させることを目的としている。さらに、３年次から履修する動物医療看護概論及び動物検査学実施等の科目は社会における実践的な課題の発見・解決のための知識や技能を身に付ける。 卒業研究論文の実験や調査のみならず、卒業後の進路に適合した知識を修得するための資格取得に必要な科目も履修することができる。

２．教育課程外の取組

キャリアデザインセミナー及び就業力育成セミナーを実施することで、実社会において活躍するために必要な能力とこれを身に付けるための方法、指針を学生に提示する。これにより、学生の学習並びに自己研鑽の意欲を高め、就業に向けた職業観を養成するとともに、学生が自身のキャリアを自ら計画、設計するための能力を育成する。さらに、就職相談会を実施し、キャリアカウンセリングを通して、学生が自らの生き方や将来の生活について具体的な展望を持つための支援を行う。

キャリア形成支援センターによる全学的な正課外のキャリア支援の取組として、学部３年生・大学院１年生対象に年間６回の就職ガイダンス、就活マナーや面接、グループディスカッション、エントリーシート対策等の実践的な支援講座、合同・個別の企業説明会・セミナー等を開催している。近年は低学年からのキャリア形成を目指し、全学年対象の業界・職種別研究セミナー、インターンシップ受入先による合同説明会やインターンシップ参加後の振り返り講座、卒業生を招いてのキャリア支援セミナー、地元企業見学ツアーなどの多様な企画を年間通して実施しており、低学年次生の参加割合も高まっている。また、最終学年で未内定の学生に向けても、就職活動の見直し講座や合同企業説明会、個別進路相談会等を

実施し、手厚く支援している。なお、インターンシップの教育的効果や学生のキャリア形成への効果を鑑み、キャリア形成支援センターに設置したインターンシップの窓口では、学生のインターンシップに関する相談・申込対応や情報提供、大学独自の課題解決型インターンシップのコーディネート等、学生のインターンシップ参加を全学的に支援している。

鹿児島大学
共同獣医学部畜産学科
（令和６年度開設）
設置の趣旨等を記載した書類

参考資料

目次

設置の趣旨及び必要性 ・・ 2
教育の目的 ・・・ 3
教育上の到達目標 ・・・ 5
教育課程の編成の考え方 ・・・ １０
履修モデル ・・ １３
入学者選抜の概要 ・・・ １６
教員組織の編制 ・・ １８
高校向けWebアンケート ・・・ ２０

設置の趣旨及び必要性

平成27年10月、日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同による農学分野の参照基準検討分科会の審議結果

→　農学の７つの基本分野：「農芸化学」、「生産農学」、**「畜産学・獣医学」**、「水産学」、「森林学・林産学」、「農業経済学」、「農業工学」

→ 「畜産学・獣医学」は、産業動物（家畜・家禽・昆虫）、伴侶動物、野生動物、実験動物等を対象とする基礎生命科学及び応用動物科学であり、ヒトと動物とその生育する場（草地等）を含めた地球環境システムとの調和を目指し、持続可能な社会の構築を目的とする。ヒトと動物の健康、環境の健全性が共通の世界の上に成り立つ（One World・One Health）との考えに立ち、福祉に配慮しながら動物を飼養管理し、育種改良と繁殖を促し、獣医療及び公衆衛生を介し、良質な畜産物や派生する生産物を安全・安定的に供給することで、人類の食と豊かな生活の基盤を支えてゆく学問分野である。

◆人類が多様な動物と共存する環境を維持しながら飼育動物を安定的に利活用してゆくために、地球環境や動物の生態に配慮して動物との共生を目指すこと、動物の機能と能力を最大限に生かして時代の要請に応じた育種改良を行い飼育動物の効率的な生産と生産物の安全性を確保する必要がある。

◆学問分野の特性を共有する畜産学と獣医学は、環境微生物叢を含む動物の生態系や動物そのものを包括的に理解する総合科学的視点を重視し、安全な動物性食品の供給、医薬品の開発や生命科学への貢献、野生動物の保護・管理、人獣共通感染症の制御等の公衆衛生、動物の病気の診断・治療及び予防等、多岐にわたる教育研究が求められている。

現代の 【畜産学・獣医学】への社会ニーズ

1. **地球環境や動物の生態に配慮しながら動物との共生を目指すこと**
2. **飼育動物を効率的・安定的に生産し、生産物の安全性を確保すること**
3. **時代の要請に応じた育種改良によって動物の機能と能力を最大限に生かすこと**

教育の目的

共同獣医学部の基本理念：「**生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する**」 → 山口大学共同獣医学部と共有。

「本学共同獣医学部の教育目標」：国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師及び創造性豊かな研究者を養成し、幅広い見識と倫理観をもって人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに、社会のニーズに対応した人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出する。

「畜産学科の教育目標」：動物福祉の概念を理解し、生物学的・化学的知識を基盤として畜産学と獣医学の素養を併せ持ち、持続可能な動物生産、人の健康・安心・安全に配慮した食料生産及び高付加価値な畜産食品の開発・流通に関する高い知識と技術を涵養し、もって我が国における未来型畜産への新興と改革を牽引して国際競争力強化に貢献できる人材を育成する。

【本学共同獣医学部のディプロマ・ポリシー】

1. 豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力
2. 獣医学・畜産学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心を持ち、問題解決できる能力
3. 動物感染症に関する基礎知識を持ち、その制圧に寄与できる能力
4. 高度な動物医療に関する基礎知識を持ち、適切に実践できる能力
5. 畜産資源に関する基礎知識を持ち、その安定供給と安全性確保に資する能力
6. 国際社会と地域社会に貢献できる能力

【畜産学科のディプロマ・ポリシー】

1. 豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力
2. 生命倫理と動物福祉に基づいた動物生命科学研究を行う知識と論理的考究の能力
3. 人と動物の健康と環境の健全性に配慮した動物生産・食料生産を管理・指導する能力
4. 持続可能な畜産経営のための革新的テクノロジーの社会実装化に取組む能力
5. 高付加価値な畜産食品の開発と国際流通に係る畜産物と加工品の評価分析を実践できる能力

教育の目的

参考：共同獣医学科の教育目標とディプロマ・ポリシー＜山口大学共同獣医学部と共有＞

共同獣医学部の基本理念：「**生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する**」 → 山口大学共同獣医学部と共有。

「本学共同獣医学部の教育目標」：国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師及び創造性豊かな研究者を養成し、幅広い見識と倫理観をもって人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに、社会のニーズに対応した人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出する。

「共同獣医学科の教育目標」：国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成し、幅広い見識と倫理観をもって人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすとともに、社会のニーズに対応した人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出する。

【本学共同獣医学部のディプロマ・ポリシー】

1. 豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力
2. 獣医学・畜産学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心を持ち、問題解決できる能力
3. 動物感染症に関する基礎知識を持ち、その制圧に寄与できる能力
4. 高度な動物医療に関する基礎知識を持ち、適切に実践できる能力
5. 畜産資源に関する基礎知識を持ち、その安定供給と安全性確保に資する能力
6. 国際社会と地域社会に貢献できる能力

【共同獣医学科のディプロマ・ポリシー：参考】

1. 豊かな人間性と獣医師としての正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる能力
2. 獣医学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心を持ち、問題解決できる能力
3. 動物感染症に関する基礎知識を持ち、その制圧に寄与できる能力
4. 高度な動物医療に関する基礎知識を持ち、適切に実践できる能力
5. 畜産資源に関する基礎知識を持ち、その安定供給と安全性確保に資する能力
6. 国際社会と地域社会に貢献できる能力

教育上の到達目標

「畜産学科の教育目標」：動物福祉の概念を理解し、生物学的・化学的知識を基盤として畜産学と獣医学の素養を併せ持ち、持続可能な動物生産、人の健康・安心・安全に配慮した食料生産及び高付加価値な畜産食品の開発・流通に関する高い知識と技術を涵養し、もって我が国における未来型畜産への新興と改革を牽引して国際競争力強化に貢献できる人材を育成する。

【畜産学科の到達目標】	【期待される成果】
1. 動物福祉の基本概念から畜産福祉に配慮した家畜の飼養管理教育の実践	1. 動物福祉（AW）を基盤とした生産システムにおける新たな獣医畜産技術の創出による、動物の生態や行動を妨げない農場環境や飼育管理技術の革新。
2. 畜産農場における動物疾病、防疫対策、食品衛生検査、薬物毒性に関する知識の付与	2. 「人と動物の健康と環境の健全性」One health に配慮された畜産物供給のための技術革新や施策提案を通じた、生産病の低減、防疫、食中毒防止、薬剤耐性の低減。
3. 競争力の高い畜産物の生産と低環境負荷を実現する持続可能な未来型畜産システムの考究	3. 未来志向型「持続可能な畜産」の生産・経営システムの社会展開による、排水汚染等の畜産公害、温室効果ガス、森林破壊等の環境問題、畜産物の国際競争力・サプライチェーン強化に取組む先進的畜産人材の育成。

我が国の未来型畜産を創る人材養成のための畜産獣医学ハイブリッド教育

～動物福祉に基づく持続可能な動物生産から人の健康・安心・安全に配慮した食料生産を完遂し、我が国の畜産獣医の国際競争力強化に資する人材の養成～

【要　旨】　動物福祉の概念を理解し、生物学的・化学的知識を基盤として畜産学と獣医学の素養を併せ持ち、持続可能な動物生産、人の健康・安心・安全に配慮した食料生産、及び高付加価値な畜産食品の開発・流通に関する高い知識と技術を涵養し、もって我が国における未来型畜産への新興と改革を牽引して国際競争力強化に貢献できる人材を育成する。

【背景・課題】人類が多様な動物と共存する環境を維持するため、又、飼育動物を安定的に利活用してゆくためには、地球環境や動物の生態に配慮しながら動物との共生を目指すこと、飼育動物を効率的に生産し、生産物の安全性を確保し、時代の要請に応じた育種改良を行い、動物の機能と能力を最大限に生かすことが必要である。畜産学は、獣医学との結びつきが強いものの獣医学とは異なる特性をもちながら教育・研究が行われている一方で、飼料学や草地学等、獣医学以外の農学各分野との結びつきも強い。**畜産学が関連領域との充実を図ることは、畜産学のみならず、獣医学や農学の強化につながる。**「日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会（平成29年6月）」

- 家畜の感受性を理解し、その生態や習性による行動を妨げられることがなきよう、アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理が求められている。国際獣疫事務局では、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を広く普及・定着させるため、平成 29 年に「アニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理の基本的な考え方について」を発出している。
- 農場経営に甚大な損害を与える豚熱・高病原性鳥インフルエンザ等の動物感染症の病原体侵入や蔓延防止を図るため、畜産飼養者が管理獣医師による飼養管理指導を受け、農場内に衛生管理を重点的に行う区域を設け、人・車両・物の出入りの制限・洗浄・消毒の徹底を求めている。
- 安全な食品を消費者に提供するため、生産から消費までの各段階での食中毒対策について調査・研究を行い、食品汚染の実態や農場の衛生対策実施状況に関する自治体調査や学術論文等に基づき、農場飼養衛生管理基準に示される人獣共通感染症予防対策や、食中毒発生を予防する総合対策を示している。
- 家畜に対する抗生物質の治療目的外使用及び過剰投与は、家畜の体内で耐性菌を増加させる原因となる。WHOは、このような飼育環境から耐性菌に感染する事態を懸念している。薬剤耐性菌に関連して2050年には1000万人の死亡者がでることが予想されており、対応が急務とされている（厚生労働省）。
- 世界的にアニマルウェルフェアやSDGｓへの意識が高まっており、日本の畜産における生産システムの改革が必要となっている。また、農家あたりの飼養規模の拡大、地域における混住化の進行、環境問題への関心の高まりを背景に、家畜の排せつ物による悪臭や水質汚染、温室効果ガス、森林破壊等、畜産経営に伴う畜産環境問題（畜産公害）が生じている。
- 畜産学は、人の食を支える家畜の品種・繁殖・飼養・管理法の改良、生産物の成分解析や食品加工等に関わる技術開発に重要かつ幅広い教育研究分野である。近年の生命工学（ゲノム解析・編集、遺伝子改変技術、胚操作、クローン胚作製技術、脳高次機能解析技術等）の発展に伴い、応用動物学の教育研究が急進しているが、使用する農場動物や実験動物の生命倫理や福祉、人や動物の健康への影響、環境負荷等の社会的課題への対応の遅れは否めない。人間本位の立場から驚異的なスピードで進められていく動物科学の先進化・高度化がもたらす地球生命への脅威に対して警鐘を鳴らすとともに、畜産学教育研究は、動物の健康と福祉を守る獣医学との共同・牽制体制の下での新展開へと見直す重要な時期にきている。

現　状

A)　アニマルウェルフェアの社会的認知度は、実験動物・野生動物・愛玩動物において高まっているが、家畜のアニマルウェルフェアである「畜産福祉」の概念は低く、教育は未だ十分と言えない。現在の集約的加工型畜産の体系を動物福祉に基づく持続型にシフトする教育研究が不十分である。

B)　畜産学教育では、品種改良に伴う生産病への理解、防疫対策や畜産食品への病原体混入・薬物残留に関する教育が足りない。獣医学教育も、家畜栄養、飼養管理、生産システム等との疾病の関係性理解や農場管理に関する実践教育が必要である。

C)　大規模畜産農場化と生産増加に伴う環境負荷増大やサプライチェーン対策、「持続可能な畜産」における技術革新に向けての教育が必要である。農場生産からと畜、畜産物の評価・加工・高度利用、畜産副産物の循環利用までの一連の流れを体系的に学ぶ畜産教育が不十分である。

変えようとする内容（【要旨】と一致する）

A)　動物福祉の基本概念から、畜産福祉に配慮した家畜の飼養管理教育の実践。

B)　畜産農場における動物疾病、防疫対策、食品衛生検査、薬物毒性に関する知識の付与。

C)　競争力の高い畜産物の生産と低環境負荷を実現する持続可能な未来型畜産システムを考究。

改善後の姿

A)　アニマルウェルフェアを基盤とした生産システムにおける新たな獣医畜産技術の創出 →　動物の生態や行動を妨げない農場環境や飼育管理技術の革新。

B)　「人と動物の健康と環境の健全性」One health に配慮された畜産物供給のための技術革新や施策提案 →　生産病低減、防疫、食中毒防止、薬剤耐性低減。

C)　未来志向型「持続可能な畜産」の生産・経営システムの社会展開 →　排水汚染等の畜産公害、温室効果ガス、森林破壊等の環境問題、畜産物の国際競争力・サプライチェーン強化に取組む人材育成。日本・アジアにおける先進的畜産人材育成拠点。

【結　論】畜産物の大量生産と大量消費を支えてきた我が国の畜産農場の大規模化が抱える諸問題（生産病、劣悪な飼育環境、病原体侵入・蔓延、周辺地域への公害等）の低減・解決に貢献する一方で、アニマルウエルフェア、人の健康と安心・安全、地球規模での環境保全に社会的信頼を得た国民の基盤的食料提供システムの構築と、高付加価値な畜産食品を必要量生産・供給する「新たな未来型畜産」の創出に、我が国最大の畜産地帯を抱える南九州に位置する鹿児島大学が他大学に先んじて取組む。**欧米水準の獣医学教育とのハイブリッドにより未来志向の畜産学の専門的な知識と技術を付与された畜産技術者が産業動物獣医師や公務員獣医師不足に悩む畜産行政・企業等に多く輩出されて重責を担う高度専門職業人として活躍する一方で、新しい価値観に立脚した動物生産システムを理解し新たな技術革新を考究する次世代の管理獣医師が養成されることが大きく期待される。**

A.アニマルウェルフェア（AW）を基盤とした生産システムにおける新たな獣医畜産技術の創出

【主旨】附属入来牧場（肉牛農場）と南九州畜産獣医学拠点（養鶏農場）における農場動物の福祉教育研究を推進

■ **農場動物利用プログラムを構築し、教育研究農場として国内初のAAALAC International認証を取得。**

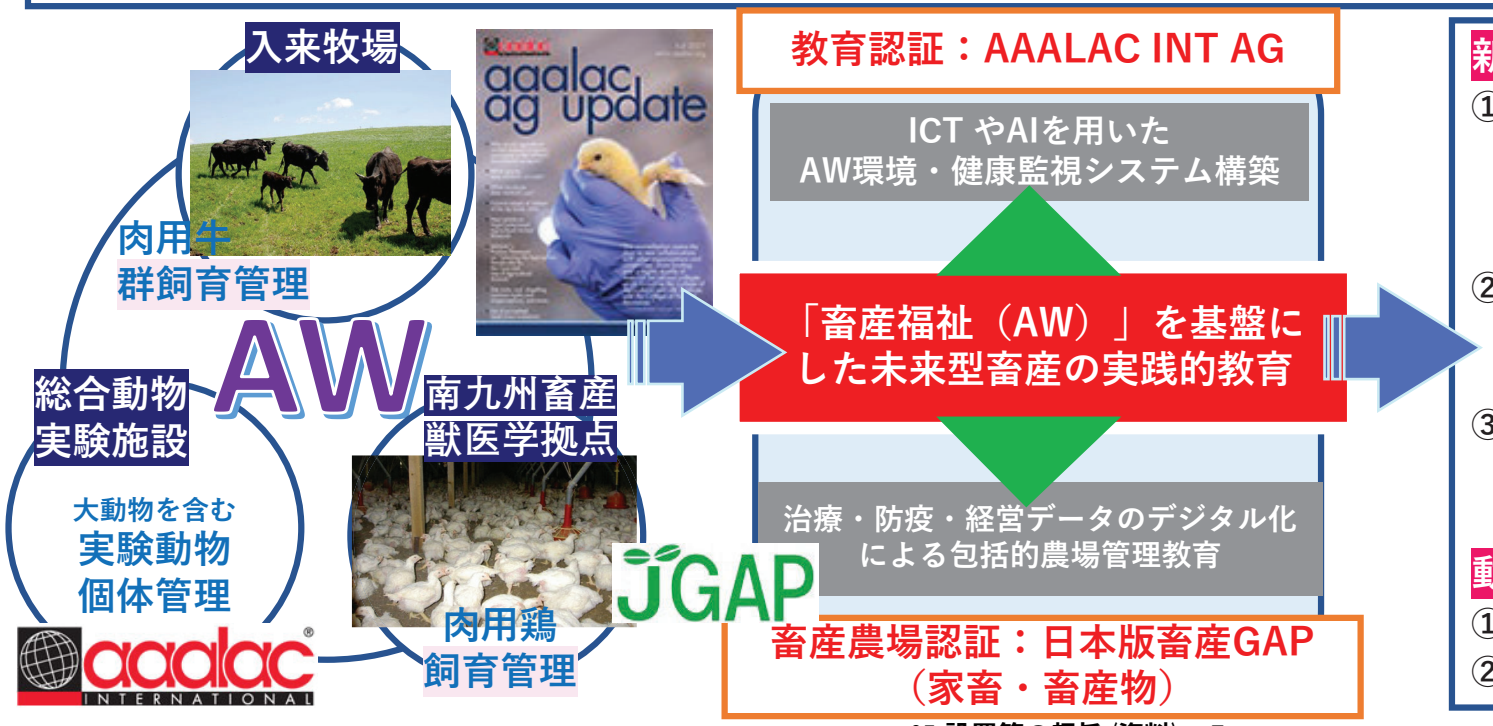
- ➢ AAALAC Int Ag Guide に適合したprogram description (PD)を構築し、それに**準拠した動物の飼育管理利用体制を整備**する。
  - Ag Guide（**The Guide for the Care and Use of Agricultural Animals in Research and Teaching**）：高品質かつ適正な農業動物管理基準に達した教育施設であることの第三者質保証であり、人道的かつ倫理的な動物のケア、科学的妥当性をもち継続的な改善の取組みがされているプログラムであることの基準（米国の酪農・畜産・養鶏科学協会の審査基準）となっている。
- ➢ 教育研究農場としてAAALAC Int 認定を申請し、**継続的な動物のケアと利用の改善に取組む施設における質の高い科学へのコミットメント**を示す。

■ **日本版畜産GAP（家畜・畜産物）基準に適合した農場運営を実践。**

- ➢ 畜産ＧＡＰ（Good Agricultural Practices：農業生産工程管理）は、農業生産活動の持続性を確保するため、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、ＡＷに関する法令等を遵守する点検項目を定め、これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組みである。
- ➢ 附属入来牧場、及び南九州畜産獣医学拠点に設置される肉牛及び養鶏農場では、いずれも生産から出荷までを行うことから、ＧＡＰ要件を踏まえた包括的な畜産農場管理運営を行う。AWや生産病軽減を踏まえた持続可能な**未来型畜産の礎となる先端技術と新しい経営システムに係る教育研究**を考究。

■ **情報通信技術（ICT）でつなぐ畜産獣医学の基盤的高度教育・実習統合システムを構築。**

- ➢ 学外遠隔地施設（附属入来牧場及び南九州畜産獣医学拠点）と大学（郡元）キャンパスとをつなぐ双方向遠隔授業システムの基盤を構築。
- ➢ ICTや人工知能（AI）を活用した動物の飼育環境と健康（行動）の監視、飼養管理、疾病治療・防疫・経営データのデジタル化（DX）による未来型の**先端生産管理技術開発**につながる教育と研究を実践。



新たな動物飼養監視技術の教育研究

① 動物行動を評価・解析する技術
- 活動、運動、移動量
- 体温・心拍数・呼吸数
- 分娩等、特殊行動の監視

② 飼養環境・管理を監視する技術
- 気温・湿度・CO_2・アンモニア濃度
- 給餌量・飲水量

③ 生態を考慮した未来型畜産技術
- 放牧型畜産
- 飼養管理基準への新提案

動物に負担の少ない新たな教育研究

① ICTによる双方向遠隔実習

② VRコンテンツの作成

B.「人と動物の健康と環境の健全性」One health に配慮した畜産物供給のための技術革新や施策提案

【主旨】畜産学におけるOne health教育を強化し、人と動物の健康と環境の健全性につながる畜産技術者養成を推進

■ **畜産学教育における獣医学的要素を強化して、動物疾病の病因・診断・治療・予防に関する知識と技術を付与する次世代カリキュラムを構築。**

- 畜産動物の健康がヒト社会及び環境の健康につながることの教育を充実。
- 従来の獣医学関連科目（解剖学・生理学・微生物学・感染症学・公衆衛生学・臨床繁殖学）に加え、4年間を通じて新たな獣医学科目を提供。
- 基礎獣医学：薬理学・毒性学では飼料添加物を含む薬物の体内動態と残留を、実験動物学では畜産動物の教育研究使用に関する知識を付与。
- 病態予防獣医学：病理学では肉眼病理・食肉病理を、動物感染症では野生動物を含む動物間を行き交う疾病を、人獣共通感染症（ウイルス・細菌・寄生虫）では動物と人とのバイオハザードに関する知識を付与。微生物学及び病理学的な実習を強化して、病勢鑑定に求められる検査技術を付与。
- 臨床獣医学：獣医内科学・外科学・繁殖学では、生産病を含む代謝疾患や蹄病等の疾病診断・予防の知識と技術を付与。

■ **HACCPやGAP教育を導入し、実務型の動物衛生学・公衆衛生学教育によるコンサルテーション人材の養成。**

- 動物衛生学：農場HACCPや畜産GAPが示す飼養管理基準を学び、民間農場の指導・審査に同行してより実践的な教育プログラムを構築。
  - 附属入来牧場及び南九州畜産獣医学拠点内の畜産GAP適合農場における実習を通じて、民間農場の認証取得を指導・審査する実践的能力を培う。
- 公衆衛生学：VRコンテンツ等を用いた食肉検査・食品衛生（食中毒）・環境衛生（廃棄物排水処理・残留薬物）等、HACCP教育の内容充実。

■ **畜産物評価・加工・衛生・分析技術の実践的総合教育の充実による過去にない新たな高度畜産技術者の養成。**

- 畜産食品教育研究開発センター（仮称）設置による食肉生産の総合的な教育体制を構築。
- 化学分析技術に関する実習や実験を通じて、分析手法と分析結果に基づく畜産物の機能・旨味・美味しさ評価の技術を修得。

畜産学教育における獣医学的要素の強化

動物疾病の病因・診断・治療・予防に関する知識と技術を付与する次世代カリキュラムを構築

畜産教育における「One health」の強化

動物衛生学・公衆衛生学的な指導を行うための実務型教育プログラムを構築

HACCP・GAP コンサルテーション教育

人材養成

公務員獣医師や産業動物獣医師と協働する高度専門職としての畜産技術者を輩出

① 家畜防疫に関連する知識と技術
- 農場コンサルタント業務
- 病性鑑定検査業務

② と畜検査に関連する知識と技術
- 食肉衛生検査関連業務
- 食品衛生検査関連業務

③ 産業動物診療に関する知識と技術
- NOSAI臨床検査・診療補助業務

畜産物評価・衛生・加工・分析技術を総合的に修得した新たな畜産技術者輩出

① ミートジャッジの知識と技術

② 畜産食品の機能・旨味・美味しさの評価技術

C.未来志向型「持続可能な畜産」の生産・経営システムの社会展開

【主旨】 **畜産の持続可能性と国際競争力の両立を目指す課題解決型の教育研究を推進**

■ **持続可能な放牧型畜産（入来牧場）に資するイノベーション研究を通じた実践的教育：持続可能な畜産につながる革新技術の社会実装と人材養成**

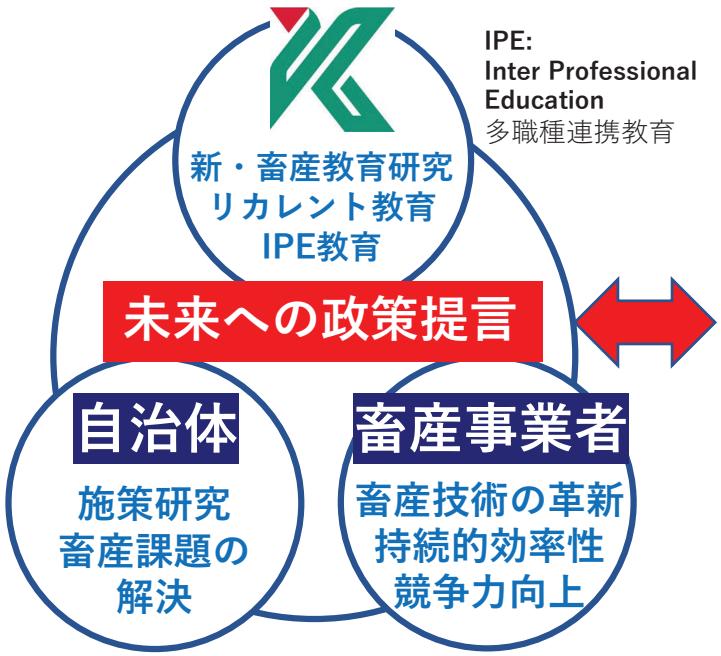
- **附属牧場のDX型先端家畜生産教育研究施設への再開発、及びそれを通じた高度活用人材の養成**
  - 実習教育研究設備の充実、及び基礎畜産学に基づく**DX化による未来型の家畜飼養管理パイロットシステムを構築。**
  - **「つねに家畜と触れ、家畜から学ぶ」**鹿児島大学独自の畜産学教育研究環境を構築。
  - 未来志向型の肉牛生産システム・環境調和型畜産・SDGs畜産による新産業システムの構築、メタン排出低減と持続可能な消費と生産を考究。
  - 食料自給率向上と食料安全保障へ貢献。
- **家畜生産から畜産物利用と畜産副産物の高度循環利用までの一連の流れを体系的・実践的に教育**し、安心・安全・高品質・高付加価値な国際競争力ある畜産物の開発教育・研究を実践（我が国における2030年の農林水産物・食品輸出目標額５兆円）。

■ **「畜産食品教育研究開発センター(仮称)」事業を通じた畜産物評価・加工・衛生・分析技術のシームレスな実践的総合教育**

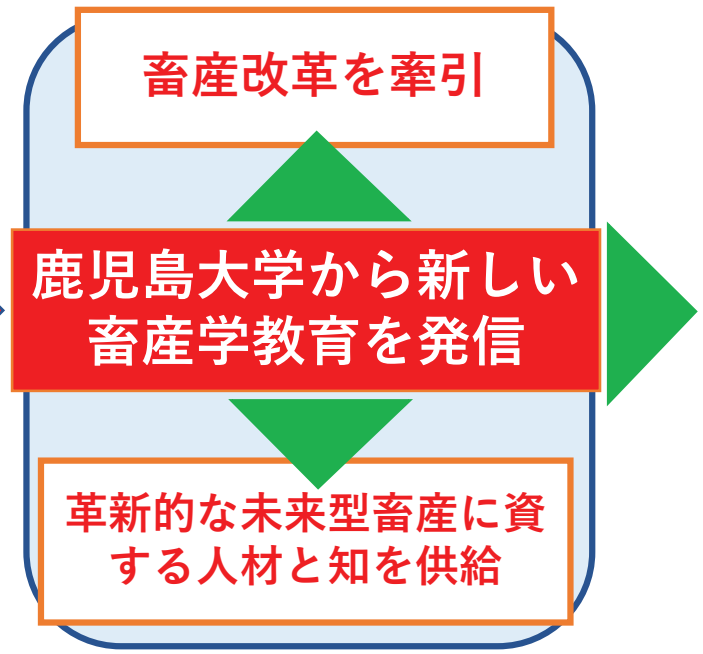
- **食肉・畜産物の加工・評価・高度利用・衛生管理までの一連の流れを体系的に学ぶ**高度教育施設及び体制を構築し、教育研究と社会貢献に高度活用。
- 現行の食肉加工実習のコンテンツ充実を図るとともに、ミートジャジングプログラム等に参加し、**畜産物加工と評価に関する実践型技術教育**を促進。
- 最新の畜産物分析技術等を教授する**社会人リカレント教育**を実施し、畜産人材のレベルアップを通じて地域畜産の競争力強化に貢献。
- 食肉・飼料・ペットフード等の分析と評価に関する**受託事業によって恒久的な自己収入**を目指す。大学ブランドの高付加価値畜産加工食品の開発にも利用。

■ **大学院修士課程畜産科学専攻（仮称）を設置（検討中）：６年教育による畜産獣医技術者を養成**

- 畜産を土壌→飼料→家畜→畜産・副産物→管理・流通→人・環境→防疫・衛生の全てを包含する**巨大な産業動物生産システムとして捉えた教育・研究**の推進。
- 従来の枠に捉われない自治体・事業者との有機的な協力関係を築き、**未来型の新しい畜産システムを考究。**



IPE:
Inter Professional
Education
多職種連携教育



- ■ 畜産公害・気候変動低減
- ■ 飼料輸入・外部市場への過度な依存低減
- ■ 新規飼料資材の開拓牧草や有機飼料による飼養
- ■ DXによる省力的・効率的生産システムの構築
- ■ 経営と生産技術の融合とサプライチェーン効率化
- ■ 我が国の畜産の持続可能性と国際競争力の向上

教育課程の編成の考え方

【本学共同獣医学部のカリキュラム・ポリシー】

山口大学との共同教育課程では、同一授業科目を同一のシラバスおよび時間割に従って履修する。教育目標に掲げる人材を育成するために、両大学の教員がそれぞれの教育資源を有効に活用し、幅広い、専門性の高い獣医学教育を提供する。この共同教育課程のカリキュラムにより、次のような知識、技術、能力を身に付けさせる。

◆ 初年次から卒業まで系統性のある教育課程を編成

① 生命倫理と動物福祉に関する知識を身につけるために、斉一教育科目（必修科目）に導入科目を配置する。

② 動物体の構造と生理機能、生体に作用する化学物質と作用機構についての基礎知識と動物生命科学の研究を行うための技術を身に付けるために、斉一教育科目に基礎獣医系科目を配置する。

③ 病気による動物体の変化、病原体の構造と病原性、感染症の予防と制圧に関する知識と技術を身に付けるために、斉一教育科目に応用獣医系科目を配置する。

④ 伴侶動物の病気とその予防・診断・治療の知識と技術を身に付けるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置する。

⑤ 畜産資源である産業動物の病気とその予防・診断・治療、生産性向上と食の安全についての知識と技術を身に付けるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置する。

⑥ 高度な知識と国際社会及び地域社会に貢献できる能力を身に付けるために、アドバンス教育としての専修教育科目（選択科目）を配置する。

◆ 目的・目標に応じた方法による教育の実施

① 学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行う。

◆ 厳格な成績評価の実現

① 各科目において教育・学習目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行う。

【共同獣医学科のカリキュラム・ポリシー：参考】

山口大学との共同教育課程を通じて、同一授業科目を同一のシラバスおよび時間割に従って履修します。教育目標に掲げる人材を育成するために、両大学の教員がそれぞれの教育資源を有効に活用し、幅広い、専門性の高い獣医学教育を提供します。この共同教育課程のカリキュラムにより、次のような知識、技術、能力を身につけさせる。

◆ 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成

① 生命倫理と獣医倫理に関する知識を身につけるために、斉一教育科目に導入科目を配置する。

② 動物体の構造と生理機能、生体に作用する化学物質と作用機構についての基礎知識と動物生命科学の研究を行うための技術を身につけるために、斉一教育科目に基礎獣医系科目を配置する。

③ 病気による動物体の変化、病原体の構造と病原性、感染症の予防と制圧に関する知識と技術を身につけるために、斉一教育科目に応用獣医系科目を配置する。

④ 伴侶動物の病気とその予防・診断・治療の知識と技術を身につけるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置する。

⑤ 産業動物の病気とその予防・診断・治療、生産性向上と食の安全についての知識と技術を身につけるために、斉一教育科目に臨床獣医系科目を配置する。

⑥ 獣医学の高度な知識と国際社会及び地域社会に貢献できる能力を身につけるために、アドバンス教育としての専修教育科目を配置する。

◆ 目的・目標に応じた方法による教育の実施

① 学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行う。

◆ 厳格な成績評価の実現

① 各科目において教育・学習目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行う。

履修課程表

科目区分			授業科目の名称等	担当者	卒業要件単位数	履修期 1年 1	1年 2	2年 3	2年 4	3年 5	3年 6	4年 7	4年 8	家畜人工授精師	食品衛生監視員	愛玩動物看護師
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目 基礎	人文・社会科学分野		4	4										
			自然科学分野		4	4										
		活用	統合I		4	4										
			統合II													
卒業要件小計（選択）					12											
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	体育・健康		1	1										
					1	1										
			初年次セミナーI		2	2										
			初年次セミナーII		2		2									
			大学と地域		2	2										
			情報活用		2	2										
		グローバル教育科目	英語		6	2	2	2								
			異文化理解		2	2										
卒業要件小計（必修）					18											
共通教育科目単位数計					30											
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	基礎生物化学	大塚、室谷	2	2										
			生化学	大塚、井尻（大）	1		1							●	●	
			分子生物学	大和、奥谷	2			2								
			動物科学専門英語	スミス	2				2							
			畜産キャリア形成I	大塚	1	1										
			畜産キャリア形成II	三好（和）	1			1								
			畜産キャリア形成III	下桐	1					1						
			欧文講読I	畜産学科教員	1							1				
			欧文講読II	畜産学科教員	1								1			
		専門基礎科目	畜産学	三好（和）、室谷、大塚	2	2								●	●	●
			獣医学概論	浅野、三好（宣）、小原、遠藤、藤木、有村、三角	1	1										
			動物福祉学	浅野、大島	1		1									●
			動物と人間の関係論	松代（非）	1		1									●
			動物形態学	辻尾	2		2							●	●	●
			動物生理学	内藤、白石	2			2						●	●	●
			実験動物学	浅野	2			2								●
			家畜飼養管理学	大島	2			2						●	●	
			家畜繁殖学	三好（和）	2			2						●	●	●
			動物遺伝学	下桐	2			2						●	●	
			家畜栄養学	井尻（大）	2			2						●	●	●
			生物統計学	下桐	2			2								
			食肉科学	室谷	2			2						●	●	
			牧場実習I	中村	1			1						●		
			牧場実習II	中村	1				1					●		
			動物行動学	大島	2				2					●		●
			畜産化学基礎実験	大塚	1				1							
			栄養生化学実験	井尻（大）	1				1							
			畜産物分析化学実験	島元	1				1							
			家畜育種・繁殖学実験	下桐、三好（和）	1				1					●		
			飼料化学	大塚	2				2					●	●	
			家畜育種学	下桐	2				2					●	●	
			畜産物加工実習	島元	1						1					
			野生・森林動物学	森脇、高山	1				1							●
			動物関係法規	北野（非）	1				1					●		●
			動物衛生学	小澤	2				2					●	●	
			動物病理学	一二三	2				2							●
			動物感染症学	田仲	2				2							●
			動物薬理・毒性学	宇野、白石	2					2						●
			公衆衛生学	中馬	1					1						●
			食品衛生学	中馬	2						2				●	●
			動物形態機能学実習	辻尾、内藤、浅野、白石	1			S						●		●
			卒業研究論文	畜産学科教員	6							6				
		小計			68											
	選択科目	専門応用科目	動物生殖工学	三好（和）	2					2				●		
			情報処理演習	下桐	1					1						
			インターンシップ研修	畜産学科教員	1					1						
			ミートジャッジング（畜産物品質評価	井尻（大）	1					1						
			草地利用学	中村	1					1					●	
			畜産物利用学	島元	2					2					●	
			食品科学	室谷	2					2						
			バイオインフォマティクス	谷口（非）、石原（非）	1						1					
			スマート畜産論	中村	1						1					
			飼料資源化学概論	大塚、井尻（大）	2						2					
			家畜人工繁殖学実習	三好（和）	1							1		●		
			家禽生産学	喜久里（非）	1							1				
			畜産物高度利用学	後藤（非）、榎元（非）	1								1			
				小計	17											
			動物臨床検査学	大和、矢吹	2					2						●
			動物医療看護概論	遠藤、三角、安藤	2					2						●
			動物看護各論	遠藤、藤木	2					2						●
			動物検査学実習	大和、矢吹	1					1						●
			動物看護学実習I	遠藤	1					1						●
			動物看護学実習II	遠藤	1						1					●
			動物内科学	遠藤、帆保	2						2					●
			動物外科学	三角	2						2					●
			適正飼養指導論	郡山（非）	1							S				●
			動物生活環境学	能田（非）	1							S				●
			産業動物治療学実習	三角	2						S					
			動物医療総合実習 I	動物病院教員	2							S				●
			動物医療総合実習 II	動物病院教員	2							S				●
				小計	21											
			食料経済学	豊	2						2					
			応用微生物学	石橋	2							2				
			農産物マーケティング論	李	2							2				
			食料安全生産論	赤木	2							2				
				小計	8											
		小計		専門選択科目の取得数の最低値	26	→	畜産科学科開講と農学部連携から、自分の興味や進路に合わせてカリキュラムを組み立てて26単位以上を取得する（共通30＋必修68＋選択26＝124単位）									
卒業要件					124									◎	◎	×
自由科目（卒業要件外）			伴侶動物学	郡山（非）	2							S				●
			愛玩動物関連産業概論	遠藤	1							S				●
			作物学	下田代	2							2				
			スマート農学入門	加治佐	2							2				
			農業と社会	坂井、豊、李、大住	2	2										
自由科目合計					9											◎

		1年 1	1年 2	2年 3	2年 4	3年 5	3年 6	4年 7	4年 8	卒業要件単位
共通教育科目	30	24	4	2	0	0	0	0	0	30
必修科目（導入・基礎教育科目／専門基礎科目）	68	6	5	21	21	4	3	7	1	68
選択専門科目（選択）	26	0	0	0	0	18	11	14	1	44
合計		30	9	23	21	22	14	21	2	124

教育課程の編成の考え方

科目区分			1年 1期	1年 2期	2年 3期	2年 4期	3年 5期	3年 6期	4年 7期	4年 8期	単位数
共通教育科目	必選修	教養教育科目	人文・社会科学 4 自然科学 4 統合Ⅰ・Ⅱ 4								30単位以上
共通教育科目		初年次教育科目	体育・健康 2 初年次セミナーⅠ 2 大学と地域 2 情報活用 2	初年次セミナーⅡ 2							30単位以上
共通教育科目		グローバル教育科目	英語 2 異文化理解 2	英語 2	英語 2						30単位以上
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	基礎生物化学 2 畜産キャリア形成Ⅰ 1	生化学 1	分子生物学 2 畜産キャリア形成Ⅱ 1	動物科学専門英語 2	畜産キャリア形成Ⅲ 1		欧文講読Ⅰ 1	欧文講読Ⅱ 1	68単位 畜産課程認定必須科目を含む
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	畜産学 2 獣医学概論 1	動物福祉学 1 動物と人間の関係論 1 動物形態学 2	動物生理学 2 実験動物学 2 家畜飼養管理学 2 家畜繁殖学 2 動物遺伝学 2 家畜栄養学 2 生物統計学 2 食肉科学 2 牧場実習Ⅰ 1 動物形態機能学実習 1	牧場実習Ⅱ 1 動物行動学 2 畜産化学基礎実験 1 栄養生化学実験 1 畜産物分析化学実験 1 家畜育種・繁殖学実験 1 飼料化学 2 家畜育種学 2 野生・森林動物学 1 動物関係法規 1 動物衛生学 2 動物病理学 2 動物感染症学 2	動物薬理・毒性学 2 公衆衛生学 1	畜産物加工実習 1 食品衛生学 2	卒業研究論文 6		68単位 畜産課程認定必須科目を含む
専門教育科目	選択科目	専門応用科目 畜産生産系・化学系科目					動物生殖工学 2 情報処理演習 1 インターンシップ研修 1 ミートジャッジング 1 草地利用学 1 畜産物利用学 2 食品科学 2	バイオインフォマティクス 1 スマート畜産論 1 飼料資源化学概論 2	家畜人工繁殖学実習 1 家禽生産学 1	畜産物高度利用学 1 13科目17単位	26単位以上を選択
専門教育科目	選択科目	専門応用科目 獣医療系科目					動物臨床検査学 2 動物医療看護概論 2 動物看護各論 2 動物検査学実習 1 動物看護学実習Ⅰ 1	動物看護学実習Ⅱ 1 動物内科学 2 動物外科学 2 産業動物治療学実習 2	適正飼養指導論 1 動物生活環境学 1 動物医療総合実習Ⅰ 2 動物医療総合実習Ⅱ 2	13科目21単位	26単位以上を選択
専門教育科目	選択科目	専門応用科目 農学系科目						食料経済学 2	応用微生物学 2 農産物マーケティング論 2 食料安全生産論 2	4科目8単位	26単位以上を選択
自由科目（卒業要件外）			農業と社会 2						伴侶動物学 2 愛玩動物関連産業概論 2 作物学 2 スマート農学入門 2		+α

合計124単位以上

【畜産学科のカリキュラム・ポリシー】

教育目標に掲げる人材を育成するために、教育資源を有効活用し、幅広い、専門性の高い畜産学教育を提供し、次のような知識、技術及び能力を身に付けさせる。

（１）初年次から卒業まで一貫した畜産学と獣医学のハイブリッド教育課程を編成

① 導入教育及び基礎教育科目を配置し、動物への正しい生命倫理、基礎的な生命科学の知識及び実践的な英語力を培う。

② 畜産学の専門科目に加えて、基礎獣医学及び病態予防獣医学の専門科目を必修科目として配置し、畜産学と獣医学に関する基礎的な知識と技術を修得させる。

③ 進路教育を強化すると共に、畜産生産系技術者、畜産化学系技術者及び獣医療系技術者の養成につながる選択科目を配置する。また、農学科目の選択履修も可能とします。

（２）目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行う。

（３）厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学習目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行う。

◆ 学生が将来の進路に応じて科目選択を行う専門応用科目（応用畜産学13科目17単位、臨床獣医学13科目21単位、農学4科目8単位）を配置。

「畜産生産系選択履修モデル」：動物生殖工学・草地利用学・スマート畜産論・家禽生産学・家畜人工繁殖学実習等を選択し畜産行政や農業協同組合において家畜生産技術者としての進路を目指す。

「畜産化学系選択履修モデル」：畜産物利用学・食品科学・畜産物高度利用学・畜産物品質評価実習等を選択し、畜産行政や企業（食品・飼料・医薬品）において畜産物や加工食品等の評価分析開発に関わる技術者を目指す。

「獣医療系選択履修モデル」：動物臨床検査学・動物医療看護概論・動物内科学/外科学・動物検査学実習・産業動物治療学実習・動物医療総合実習等を選択し、畜産行政はもとより、農業共済組合・動物医療・動物薬企業・動物園等において獣医師と協働する技術者としての進路を目指す。

畜産生産系選択履修モデル

科目区分				1年 1期	1年 2期	2年 3期	2年 4期	3年 5期	3年 6期	4年 7期	4年 8期	単位数
共通教育科目	必修	教養教育科目		人文・社会科学 4 自然科学 4 統合Ⅰ・Ⅱ 4								30単位
共通教育科目	選択	初年次教育科目		体育・健康 2 初年次セミナーⅠ 2 大学と地域 2 情報活用 2	初年次セミナーⅡ 2							
共通教育科目	選択	グローバル教育科目		英語 2 異文化理解 2	英語 2	英語 2						
専門教育科目	必修	導入・基礎教育科目		基礎生物化学 2 畜産キャリア形成Ⅰ 1	生化学 1	分子生物学 2 畜産キャリア形成Ⅱ 1	動物科学専門英語 2	畜産キャリア形成Ⅲ 1		欧文講読Ⅰ 1	欧文講読Ⅱ 1	68単位 畜産課程認定必須科目を含む
専門教育科目	必修	専門基礎科目		畜産学 2 獣医学概論 1	動物福祉学 1 動物と人間の関係論 1 動物形態学 2	動物生理学 2 実験動物学 2 家畜飼養管理学 2 家畜繁殖学 2 動物遺伝学 2 家畜栄養学 2 生物統計学 2 食肉科学 2 牧場実習Ⅰ 1 動物形態機能学実習 1	牧場実習Ⅱ 1 動物行動学 2 畜産化学基礎実験 1 栄養生化学実験 1 畜産物分析化学実験 1 家畜育種・繁殖学実験 1 飼料化学 2 家畜育種学 2 野生・森林動物学 1 動物関係法規 1 動物衛生学 2 動物病理学 2 動物感染症学 2	動物薬理・毒性学 2 公衆衛生学 1	畜産物加工実習 1 食品衛生学 2	卒業研究論文 6		
専門教育科目	選択	専門応用科目	畜産生産系・化学系科目					動物生殖工学 2 情報処理演習 1 インターンシップ研修 1 ミートジャッジング 草地利用学 1 畜産物利用学 2 食品科学	バイオインフォマティクス 1 スマート畜産論 1 飼料資源化学概論	家畜人工繁殖学実習 1 家禽生産学 1	畜産物高度利用学 11単位	27単位を選択
専門教育科目	選択	専門応用科目	獣医療系科目					動物臨床検査学 2 動物医療看護概論 2 動物看護各論 動物検査学実習 動物看護学実習Ⅰ	動物看護学実習Ⅱ 動物内科学 2 動物外科学 2 産業動物治療学実習	適正飼養指導論 1 動物生活環境学 1 動物医療総合実習Ⅰ 動物医療総合実習Ⅱ	10単位	
専門教育科目	選択	専門応用科目	農学系科目						食料経済学 2	応用微生物学 農産物マーケティング論 2 食料安全生産論 2	6単位	
自由科目（卒業要件外）				農業と社会 2						伴侶動物学 2 愛玩動物関連産業概論 2 作物学 2 スマート農学入門 2		＋α

合計125単位以上

◆ 動物生殖工学・草地利用学・スマート畜産論・家禽生産学・家畜人工繁殖学実習等を選択し、畜産行政や農業協同組合において家畜生産技術者としての進路を目指す。

畜産化学系選択履修モデル

科目区分				1年 1期	1年 2期	2年 3期	2年 4期	3年 5期	3年 6期	4年 7期	4年 8期	単位数
共通教育科目	必選修択	教養教育科目		人文・社会科学 4 自然科学 4 統合Ⅰ・Ⅱ 4								30単位
		初年次教育科目		体育・健康 2 初年次セミナーⅠ 2 大学と地域 2 情報活用 2	初年次セミナーⅡ 2							
		グローバル教育科目		英語 2 異文化理解 2	英語 2	英語 2						
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目		基礎生物化学 2 畜産キャリア形成Ⅰ 1	生化学 1	分子生物学 2 畜産キャリア形成Ⅱ 1	動物科学専門英語 2	畜産キャリア形成Ⅲ 1		欧文講読Ⅰ 1	欧文講読Ⅱ 1	68単位 畜産課程認定必須科目を含む
		専門基礎科目		畜産学 2 獣医学概論 1	動物福祉学 1 動物と人間の関係論 1 動物形態学 2	動物生理学 2 実験動物学 2 家畜飼養管理学 2 家畜繁殖学 2 動物遺伝学 2 家畜栄養学 2 生物統計学 2 食肉科学 2 牧場実習I 1 動物形態機能学実習 1	牧場実習II 1 動物行動学 2 畜産化学基礎実験 1 栄養生化学実験 1 畜産物分析化学実験 1 家畜育種・繁殖学実験 1 飼料化学 2 家畜育種学 2 野生・森林動物学 1 動物関係法規 1 動物衛生学 2 動物病理学 2 動物感染症学 2	動物薬理・毒性学 2 公衆衛生学 1	畜産物加工実習 1 食品衛生学 2	卒業研究論文 6		
	選択科目	専門応用科目	畜産生産系・化学系科目					動物生殖工学 2 情報処理演習 1 インターンシップ研修 1 ミートジャッジング 1 草地利用学 畜産物利用学 2 食品科学 2	バイオインフォマティクス 1 スマート畜産論 飼料資源化学概論 2	家畜人工繁殖学実習 1 家禽生産学 1	畜産物高度利用学 1 15単位	27単位を選択
			獣医療系科目					動物臨床検査学 2 動物医療看護概論 動物看護各論 動物検査学実習 1 動物看護学実習I	動物看護学実習II 動物内科学 動物外科学 産業動物治療学実習	適正飼養指導論 1 動物生活環境学 動物医療総合実習Ⅰ 動物医療総合実習Ⅱ	4単位	
			農学系科目						食料経済学 2	応用微生物学 2 農産物マーケティング論 2 食料安全生産論 2	8単位	
自由科目（卒業要件外）				農業と社会 2						伴侶動物学 2 愛玩動物関連産業概論 2 作物学 2 スマート農学入門 2		＋α

合計125単位以上

◆ 畜産物利用学・食品科学・畜産物高度利用学・畜産物品質評価実習等を選択し、畜産行政や企業（食品・飼料・医薬品）において畜産物や加工食品等の評価分析開発に関わる技術者を目指す。

獣医療系選択履修モデル

科目区分				1年 1期	1年 2期	2年 3期	2年 4期	3年 5期	3年 6期	4年 7期	4年 8期	単位数
共通教育科目	必修	教養教育科目		人文・社会科学 4 自然科学 4 統合Ⅰ・Ⅱ 4								30単位
共通教育科目	選択	初年次教育科目		体育・健康 2 初年次セミナーⅠ 2 大学と地域 2 情報活用 2	初年次セミナーⅡ 2							
共通教育科目	選択	グローバル教育科目		英語 2 異文化理解 2	英語 2	英語 2						
専門教育科目	必修	導入・基礎教育科目		基礎生物化学 2 畜産キャリア形成Ⅰ 1	生化学 1	分子生物学 2 畜産キャリア形成Ⅱ 1	動物科学専門英語 2	畜産キャリア形成Ⅲ 1		欧文講読Ⅰ 1	欧文講読Ⅱ 1	68単位 畜産課程認定必須科目を含む
専門教育科目	必修	専門基礎科目		畜産学 2 獣医学概論 1	動物福祉学 1 動物と人間の関係論 1 動物形態学 2	動物生理学 2 実験動物学 2 家畜飼養管理学 2 家畜繁殖学 2 動物遺伝学 2 家畜栄養学 2 生物統計学 2 食肉科学 2 牧場実習Ⅰ 1 動物形態機能学実習 1	牧場実習Ⅱ 1 動物行動学 2 畜産化学基礎実験 1 栄養生化学実験 1 畜産物分析化学実験 1 家畜育種・繁殖学実験 1 飼料化学 2 家畜育種学 2 野生・森林動物学 1 動物関係法規 1 動物衛生学 2 動物病理学 2 動物感染症学 2	動物薬理・毒性学 2 公衆衛生学 1	畜産物加工実習 1 食品衛生学 2	卒業研究論文 6		
専門教育科目	選択	専門応用科目	畜産生産系・化学系科目					動物生殖工学 2 情報処理演習 1 インターンシップ研修 ミートジャッジング 草地利用学 畜産物利用学 食品科学	バイオインフォマティクス スマート畜産論 飼料資源化学概論	家畜人工繁殖学実習 1 家禽生産学	畜産物高度利用学 4単位	27単位を選択
専門教育科目	選択	専門応用科目	獣医療系科目					動物臨床検査学 2 動物医療看護概論 2 動物看護各論 2 動物検査学実習 1 動物看護学実習Ⅰ 1	動物看護学実習Ⅱ 1 動物内科学 2 動物外科学 2 産業動物治療学実習 2	適正飼養指導論 1 動物生活環境学 1 動物医療総合実習Ⅰ 2 動物医療総合実習Ⅱ 2	21単位	
専門教育科目	選択	専門応用科目	農学系科目						食料経済学 2	応用微生物学 農産物マーケティング論 食料安全生産論	2単位	
自由科目（卒業要件外）				農業と社会 2						伴侶動物学 2 愛玩動物関連産業概論 2 作物学 2 スマート農学入門 2		＋α

合計125単位以上

◆ 動物臨床検査学・動物医療看護概論・動物内科学/外科学・動物検査学実習・産業動物治療学実習・動物医療総合実習等を選択し、畜産行政はもとより、農業共済組合・動物医療・動物薬企業・動物園等において獣医師と協働する技術者としての進路を目指す。

入学者選抜の概要

【本学共同獣医学部のアドミッション・ポリシー】

共同獣医学部では、発展・進化する獣医科学及び畜産科学に取り組む知識欲と探求心、これを実践・活用する論理性と創造力、及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求め、以下のアドミッション・ポリシーを定める。

1. 獣医師の幅広い職責について理解し、獣医学を志す明確な目的意識を有する人
2. 動物を慈しみ、動物生命科学研究によって畜産資源の安定供給と安全性確保に貢献する目的意識のある人
3. 自然科学、人文・社会科学及び語学に関する基礎教科を満遍なく学習し、獣医学・畜産学の知識や技術を充分に理解、修得するための基礎学力を身につけている人
4. 人と動物の健全な共生社会実現のために積極的に取り組む意思を有し、社会的にコミュニケーションがとれる人

【畜産学科のアドミッション・ポリシー】

1. 動物を慈しみ、動物生命科学研究、動物生産、食料生産及び環境保全に強い関心を持って、将来、畜産分野で活躍をめざす明確な目的意識のある人
2. 自然科学に幅広い知識と外国語の基礎学力を備え、専門知識・技能を活用して課題解決に取組むための思考力・判断力・表現力の修得に意欲のある人
3. 人と動物の健全な共生社会実現に積極的に取り組む意思を有し、社会的コミュニケーションがとれる人

【畜産学科の入学者選抜の基本方針】

◆一般選抜（前期日程、募集人員14人）：大学入学共通テストで５教科７または８科目を課すとともに、個別学力検査で数学（数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ）、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学から１科目）、英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ）のうちの２科目を課し、基礎学力、及び思考力を評価する。

◆一般選抜（後期日程、募集人員5人）：大学入学共通テストで５教科７または８科目を課すとともに、個別学力検査では面接調書を作成して面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、表現力、及び適正を評価する。

◆総合型選抜（自己推薦型選抜、募集人員5人）：大学入学共通テストで３教科５または６科目を課すとともに、個別学力検査等で講義型試験及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、及び適正を総合的に評価する。

◆学校推薦型選抜Ⅰ（専門高校等対象、募集人員4人）：農業科、農業経営科、畜産科、生物工学科あるいはこれらに準ずる学科、もしくは総合学科を対象に、高等学校の学習成績概評がＡ以上の者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文及び面接を課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、及び適正を評価する。

◆学校推薦型選抜Ⅰ（普通科高校等対象、募集人員2人）：研究活動に主体的に取り組みを行った経験を有する者について、大学入学共通テストを課すことなく、個別学力検査等で小論文、及び理科または畜産・食品関連をテーマとしたプレゼンテーションを課し、基礎学力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、及び適正を総合的に評価する。

◆国際バカロレア選抜（募集人員 若干人）：高いIBフルディプロマのスコアを有する者について、書類審査及び面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、英語能力、志望動機、勉学意欲、理解力、分析力、論理的思考力、表現力、及び適正を総合的に評価する。

◆私費外国人学部留学生選抜（募集人員 若干人）： TOEFL又はTOEIC及び日本留学試験を課し、さらに面接用作文を作成して面接（日本語）を課し、基礎学力、日本語能力、志望動機、勉学意欲、及び英語能力を総合的に評価する。

畜産学科の入学者選抜の基本方針

学部	学科	入学定員	募集人員								
共同獣医学部	畜産学科	30人	一般選抜		総合型選抜		学校推薦			国際バカロレア選抜	私費外国人学部留学生選抜
							選抜Ⅰ		選抜Ⅱ		
			前期日程	後期日程	AO型選抜	自己推薦型選抜	専門高校対象	普通高校対象			
			14人	5人		5人	4人	2人		若干人	若干人
評価方法	共通テスト		1200	1000		600					
	個別学力試験 3科目から2科目選択	英語	200								
		数学	200								
		理科	200								
	小論文						60	50			
	面　接			200		200	40				
	模擬授業					200					
	調 査 書										
	そ の 他							50			
	合　計		1600	1200		1000	100	100			

【共同獣医学科のアドミッション・ポリシー：参考】

発展・進化する獣医科学に取り組む知識欲と探求心、これを実践・活用する論理性と創造力、及びチーム活動と共生社会形成のためのコミュニケーション能力の素養を備えた、次のような学生を求め、以下のアドミッション・ポリシーを定める。

1. 獣医師の幅広い職責について理解し、獣医学を志す明確な目的意識を有する人
2. 自然科学、人文・社会科学及び語学に関する基礎教科を満遍なく学習し、獣医学の知識や技術を充分に理解、修得するための基礎学力を身に付けている人
3. 人と動物の健全な共生社会実現のために積極的に取り組む意思を有し、社会的にコミュニケーションがとれる人

学系	学科	講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
獣医学系	共同獣医学科	基礎獣医学	解剖学			1
			行動生理・生態学	1	1	
			薬理学		1	
			分子病態学	1		
			実験動物学	1		
		病態予防獣医学	動物微生物学		1	
			組織病理学	1	1	
			寄生虫病学		1	
			動物衛生学		1	
			公衆衛生学	1	1	
			感染症学	1		
		臨床獣医学	画像診断学			
			臨床病理学	1		
			伴侶動物内科学	1		
			外科学	1		
			産業動物内科学	1		1
			産業動物獣医学		1	
			獣医繁殖学		1	
	畜産学科	畜産科学	家畜育種学	1		
			家畜繁殖学	1		
			家畜飼養管理学		1	
			栄養生化学・飼料化学	1	1	
			食肉科学	1		
			畜産物利用学			1
	附属施設		動物病院	3	2	5
			越境性動物疾病制御研究センター	1	2	3
			牧場（持続的家畜生産システム学）			1
	獣医学教育改革室			1		
人数（合計）				19	15	12
				46		

【カリキュラム・ポリシーに対応した教員体制】教員組織の編制

1）専門基礎科目（2年次までの必修科目）

◆ 畜産学・家畜育種学・家畜繁殖学・家畜飼養管理学・家畜栄養学・食肉科学、等
→ 担当：「畜産科学講座」

◆ 動物福祉学・動物と人間の関係論・動物形態機能学・動物生理学、等
→ 担当：「基礎獣医学講座」

◆ 実験動物学・野生森林動物学・動物衛生学・公衆衛生学、等
→ 担当：「病態予防獣医学講座」

2）専門応用科目（3年次以降の授業科目）：進路希望に応じた選択科目

◆ 畜産生産系技術者履修モデル（動物生殖工学・草地利用学・スマート畜産論・家禽生産学・家畜人工繁殖学実習、等）
→ 担当：「畜産科学講座」

◆ 畜産化学系技術者履修モデル（畜産物利用学・食品科学・飼料資源化学概論・畜産物高度利用学・畜産物品質評価実習、等）
→ 担当：「畜産科学講座」

◆ 獣医療系技術者履修モデル（動物臨床検査学・動物医療看護概論・動物看護学各論・動物内科学・動物外科学、）
→ 担当：「臨床獣医学講座」

3）附属牧場や動物病院における特色ある実践教育： 専門的な畜産技術者及び獣医療技術者を養成するために、牧場実習、畜産物加工実習、産業動物治療学実習、動物医療総合実習等を担当する実務経験の豊富な教員（特任教員等）を積極的に活用する。教員あたりの学生数を最小限として、よりきめ細やかな技術指導を可能とすることで、知識の付与のみならず技術の修得を効果的に行う。

※定年退職後は後任補充予定

令和6年4月1日	60歳以上	50歳以上	40歳以上	30歳以上	20歳以上	計（人）
共同獣医学科（動物病院、越境性動物疾病制御研究センター教員を含む）	6	13	14	5	0	38
畜産学科（牧場教員を含む）	0	4	2	1	1	8
専任教員計（人）	6	17	16	6	1	46
特任教員	1	1	1	1	0	4

令和10年3月31日	60歳以上	50歳以上	40歳以上	30歳以上	20歳以上	計（人）
共同獣医学科（動物病院、越境性動物疾病制御研究センター教員を含む）	7	15	12	2	0	36
畜産学科（牧場教員を含む）	2	3	1	2	0	8
専任教員計（人）	9	18	13	4	0	44
特任教員	2	0	1	1	0	4

教員組織の編制

学系	学科	講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
獣医学系	共同獣医学科	基礎獣医学	解剖学			1
			行動生理・生態学	1	1	
			薬理学		1	
			分子病態学	1		
			実験動物学	1		
		病態予防獣医学	動物微生物学		1	
			組織病理学	1	1	
			寄生虫病学		1	
			動物衛生学		1	
			公衆衛生学	1	1	
			感染症学	1		
		臨床獣医学	画像診断学			
			臨床病理学	1		
			伴侶動物内科学	1		
			外科学	1		
			産業動物内科学	1		1
			産業動物獣医学		1	
			獣医繁殖学		1	
	畜産学科	畜産科学	家畜育種学	1		
			家畜繁殖学	1		
			家畜飼養管理学		1	
			栄養生化学・飼料化学	1	1	
			食肉科学	1		
			畜産物利用学			1
	附属施設		動物病院	3	2	5
			越境性動物疾病制御研究センター	1	2	3
			牧場（持続的家畜生産システム学）			1
			獣医学教育改革室	1		
人数（合計）				19	15	12
				46		

授業担当

授業担当

授業担当

科目区分	授業科目の名称等	担当者	卒業要件単位数	1年 1	1年 2	2年 3	2年 4	3年 5	3年 6	4年 7	4年 8	家畜人工授精師	食品衛生監視員	愛玩動物看護師
共通教育科目 選択必修科目 教養教育科目 基礎	人文・社会科学分野		4	4										
	自然科学分野		4	4										
活用	統合I / 統合II		4	4										
卒業要件小計（選択）			12											
必修科目 初年次教育科目	体育・健康		1	1										
			1	1										
	初年次セミナーI		2	2										
	初年次セミナーII		2		2									
	大学と地域		2	2										
	情報活用		2	2										
グローバル教育科目	英語		6	2	2	2								
	異文化理解		2	2										
卒業要件小計（必修）			18											
共通教育科目単位数計			30											
専門教育科目 必修科目 導入・基礎教育科目	生化学	新教授、調整中	1		1							●	●	
	分子生物学	大和、奥谷	2			2								
	動物科学専門英語	スミス	2				2							
	畜産キャリア形成I	大塚（オムニ：ゲスト教員リストアップ中）	1	1										
	畜産キャリア形成II	三好（オムニ：ゲスト教員リストアップ中）	1			1								
	畜産キャリア形成III	下桐（オムニ：ゲスト教員リストアップ中）	1					1						
	欧文講読I	畜産学科教員	1							1				
	欧文講読II	畜産学科教員	1								1			
専門基礎科目	畜産学	三好（和）、新教授、大塚	2	2								●	●	●
	獣医学概論	浅野淳、三好宣彰、小原 恭子、遠藤泰之、藤木誠、有村卓朗、三角一浩	1	1										
	動物福祉学	浅野、大島	1		1									●
	動物と人間の関係論	松代 真琳（外部非常勤）	1		1									●
	動物形態学	辻尾	2		2							●	●	●
	動物生理学	内藤、白石	2			2						●	●	●
	実験動物学	浅野	2			2								●
	家畜飼養管理学	大島	2			2						●	●	
	家畜繁殖学	三好（和）	2			2						●	●	●
	動物遺伝学	下桐	2			2						●	●	
	家畜栄養学	井尻（大）	2			2						●	●	●
	生物統計学	下桐	2			2								
	食肉科学	新教授	2			2						●	●	
	牧場実習I	新助教（生産系、牧場担当）	1			1						●		
	牧場実習II	新助教（生産系、牧場担当）	1				1					●		
	動物行動学	大島	2				2					●		●
	畜産化学基礎実験	大塚	1				1							
	栄養生化学実験	井尻（大）	1				1							
	畜産物分析化学実験	新助教（化学系、食品担当）	1				1							
	家畜育種・繁殖学実験	下桐、三好（和）	1				1					●		
	飼料化学	大塚	2				2					●	●	
	家畜育種学	下桐	2				2					●	●	
	畜産物加工実習	新助教（化学系、食品担当）	1						1					
	野生・森林動物学	森脇、高山	1				1							●
	動物関係法規	北野良夫	1				1					●		●
	動物衛生学	小澤	2				2					●	●	
	動物病理学	一二三	2				2							●
	動物感染症学	田仲	2				2							●
	動物薬理・毒性学	宇野、白石	2					2						●
	公衆衛生学	中馬	1					1						●
	食品衛生学	中馬	2						2				●	●
	動物形態機能学実習	辻尾、内藤、浅野、白石、調整中	1			S						●		●
選択科目	動物生殖工学	三好（和）	2					2				●		
	情報処理演習	下桐	1					1						
	インターンシップ研修	畜産学科教員	1					1						
	ミートジャッジング（畜産物品質評価	井尻（大）	1					1						
	草地利用学	新助教（牧場担当）	1					1					●	
	畜産物利用学	新助教（化学系、食品担当）	2					2					●	
	食品科学	新教授	2					2						
	バイオインフォマティクス	非常勤（谷口：農研機構、石原：日獣大）	1						1					
	スマート畜産論	新助教（牧場担当）	1						1					
	飼料資源化学概論	大塚、井尻（大）	2						2					
	家畜人工繁殖学実習	三好（和）	1							1		●		
	家禽生産学	非常勤（喜久里、東北大）	1							1				
	畜産物高度利用学	非常勤（後藤：帯畜大、榎元：帝京大）	1								1			
選択科目 応用科目	動物医療看護概論	外部非常勤（要調整）・遠藤、三角、安藤	2					2						●
	動物看護各論	外部非常勤（要調整）	2					2						●
	動物検査学実習	大和、矢吹	1					1						●
	動物看護学実習I	遠藤	1					1						●
	動物看護学実習II	遠藤	1						1					●
	動物内科学	遠藤、帆保	2						2					●
	動物外科学	三角	2						2					●
	適正飼養指導論	外部非常勤（調整中）	1							S				●
	動物生活環境学	外部非常勤（調整中）	1							S				●
	産業動物治療学実習	三角	2						S					
	動物医療総合実習 I	動物病院教員	2							S				●
	動物医療総合実習 II	動物病院教員	2							S				●
		小計	21											
	応用微生物学	石橋（農学部教員）	2							2				
	農産物マーケティング論	李（農学部教員）	2							2				
	食料安全生産論	赤木（農学部教員）	2							2				
		小計	8											
小計		専門選択科目の取得数の最低値	26	→	畜産科学科開講と農学部連携から、自分の興味や進路に合わせてカリキュラムを組み立てて26単位以上を取得する（共通30＋必修68＋選択26＝124単位）									
卒業要件			124									◎	◎	×

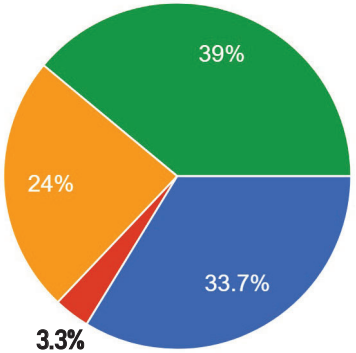
科目区分	授業科目の名称等	担当者	単位数	1	2	3	4	5	6	7	8	家畜人工授精師	食品衛生監視員	愛玩動物看護師
自由科目（卒業要件外）	伴侶動物学	外部非常勤（調整中）	2							S				●
	愛玩動物関連産業概論	外部非常勤（調整中）	1							S				●
	作物学	下田代（農学部教員）	2							2				
	スマート農学入門	加治佐（農学部教員）	2							2				
	農業と社会	オムニ：農・経済系教員	2	2										
自由科目合計			9											◎

		1年 1	1年 2	2年 3	2年 4	3年 5	3年 6	4年 7	4年 8	卒業要件単位
共通教育科目	30	24	4	2	0	0	0	0	0	30
必修科目（導入・基礎教育科目／専門基礎科目）	68	6	5	21	21	4	3	7	1	68
選択専門科目（選択）	26	0	0	0	0	18	11	14	1	44
合計		30	9	23	21	22	14	21	2	124

開講科目ハイライト：薄緑→畜産、水色→獣医、オレンジ→農学

高校向けWebアンケート《生徒用》調査まとめ　n=421

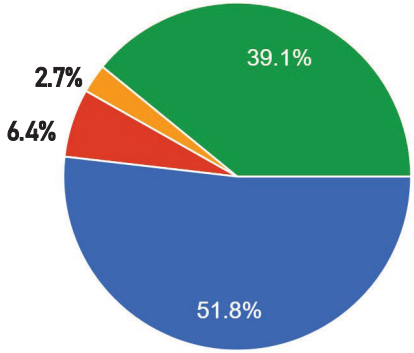
Q. 鹿児島大学の新しい畜産学教育について興味がありますか？



- ① 興味がある　①１４２人
- ② 非常に興味がある　②　１４人
- ③ 興味がない　③１０１人
- ④ わからない　④１６４人

4割近い生徒が興味を示す

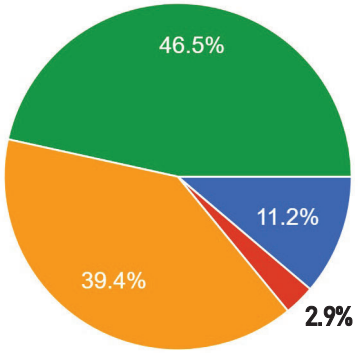
Q. 新しい畜産学教育は卒業後の就職に有利になると思いますか？



- ① 有利になる　①２１２名
- ② 非常に有利になる　②　２６名
- ③ 有利にならない　③　１１名
- ④ わからない　④１６０名

6割近い生徒が就職に有利になると考える

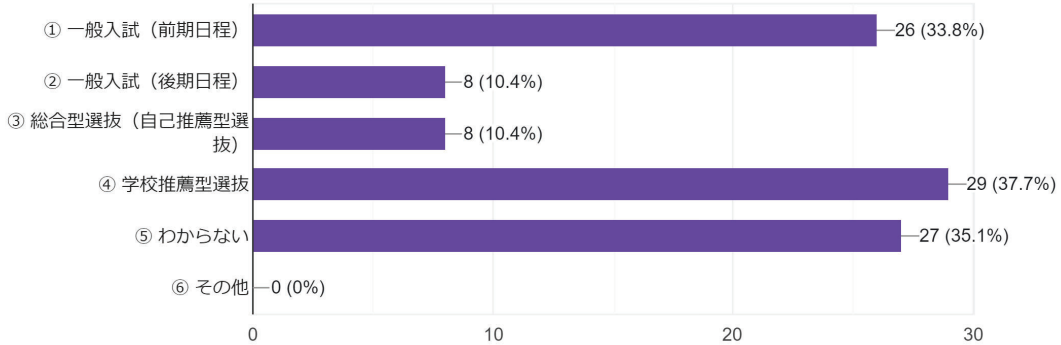
Q. 新しい畜産学教育課程ができたら，受験の対象として考えますか？



- ① 受験したい　①　４７人
- ② ぜひ受験したい　②　１２人
- ③ 受験したいと思わない　③１６５人
- ④ わからない　④１９５人

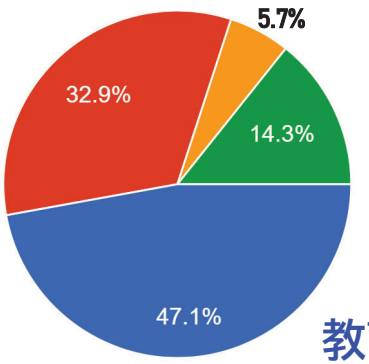
419人中59人の生徒が受験対象にしている

Q.「受験したい」や「ぜひ受験したい」を選択した方は，受験の対象とする試験方法を選んでください



前期日程と学校推薦への高いニーズがある（教諭アンケートでも同様の傾向。データ省略）

Q.「受験したい」や「ぜひ受験したい」を選択した方は，受験の対象とする理由を選んでください。



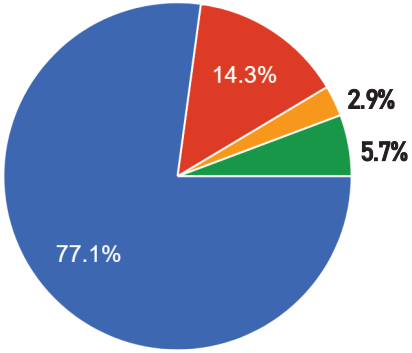
- ① 畜産学について多くのことを学べそうだから
- ② 畜産学についてだけでなく，獣医学についても学べそうだから　①３３人
- ③ 取得できる資格があるから　②２３人
- ④ 就職に有利そうだから　③　４人
- ⑤ 合格しやすそうだから　④１０人
- ⑥ その他　⑤
- ⑥

教育内容に高い期待が示されている

■回答者総数421人の内訳
- 鹿児島322人，広島55人，岐阜21人，福岡8人，愛知8人，宮崎6人，不明1人
- 普通高校225人，農業高校195人，他1人。
- 1年生125人，2年生220人，3年生75人，卒業生1人

高校向けWebアンケート《教諭用》調査まとめ　n=35

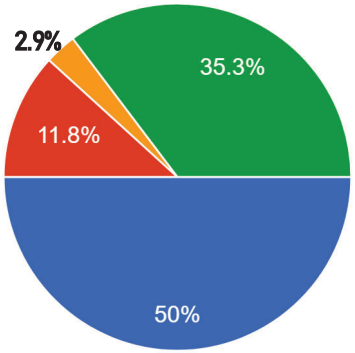
Q. 鹿児島大学の新しい畜産学教育について興味がありますか？



- ① 興味がある　①２７人
- ② 非常に興味がある　②　５人
- ③ 興味がない　③　１人
- ④ わからない　④　２人

9割以上の教諭が興味を示す

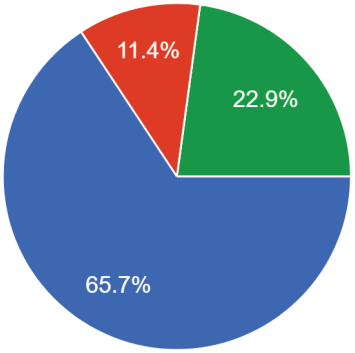
Q. 新しい畜産学教育は卒業後の就職に有利になると思いますか？



- ① 有利になる　①１７名
- ② 非常に有利になる　②　４名
- ③ 有利にならない　③　１名
- ④ わからない　④１２名

6割以上の教諭が就職に有利になると考える

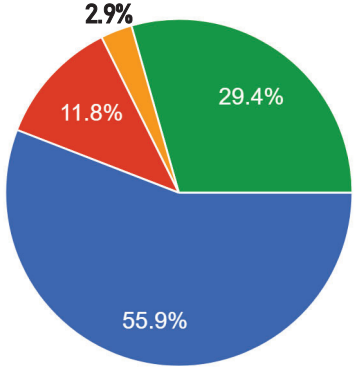
Q. 新しい畜産学教育課程ができたら，生徒に受験をすすめますか？



- ① 受験をすすめる　①２３人
- ② 強く受験をすすめる　②　４人
- ③ すすめない　③
- ④ わからない　④　８人

8割近い教諭が受験をすすめる

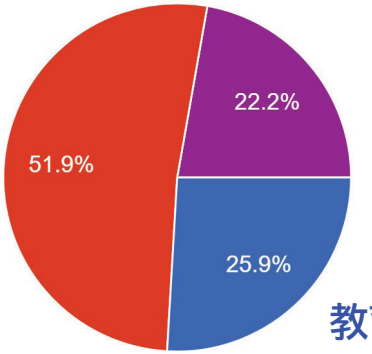
Q. 新しい畜産学教育を学べる学部・学科等に受験者のニーズは今後増えると思いますか？



- ① 増える　①１９名
- ② 今と変わらない　②　４名
- ③ 減る　③　１名
- ④ わからない　④１０名

6割近い教諭が受験ニーズの増加があると考える

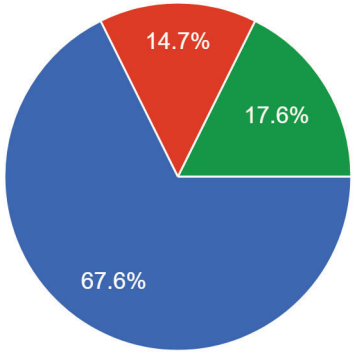
Q.「受験をすすめる」や「強く受験をすすめる」を選択した方は，生徒に受験をすすめる理由を選んでください。



- ① 畜産学を幅広く学べそうだから　①　７人
- ② 畜産学分野だけでなく，獣医学分野の科目も多く学べそうだから　②１４人
- ③ 取得できる資格があるから　③
- ④ 就職に有利そうだから　④
- ⑤ 社会のニーズに合致したことが学べそうだから　⑤　６人
- ⑥ 合格しやすそうだから　⑥
- ⑦ その他　⑦

教育内容と社会ニーズへの高い期待がある

Q. 新しい畜産学教育によって幅広い専門知識と技術を修得した畜産技術者に対する社会のニーズ（就職先）は，今後増えると思いますか？



- ① 増える　①２３名
- ② 今と変わらない　②　５名
- ③ 減る　③
- ④ わからない　④　６名

7割近い教諭が社会ニーズの増加があると考える

Webアンケート調査のまとめ

高校生アンケート

☞ **畜産関連を志望する生徒には魅力的であり、他の多くの生徒も関心を示した。その一方でよく理解していない生徒も多いことも認められた。全国を視野にした広報と周知活動が必要である。**

【生徒からの意見や要望】

- 畜産学課程で何を学ぶのか（類似３件）
- 畜産学課程で取得できる資格はあるのか，獣医師の免許も取得できるのか（類似３件）
- 新しい畜産学教育課程ができたらぜひ体験してみたい

高校教諭アンケート

☞ **就職や社会ニーズの高さが期待され、有望な進学候補としてとらえている。今後の進路指導に影響を及ぼす可能性が高いため、高校教諭を対象にした広報活動に焦点を置く必要がある。**

【教諭からの意見や要望】

- 獣医学部に組み込まれる事で，これまでより畜産の偏差値、難易度が上がっていくのでは（類似２件）。
- 共通テストで思うように得点できなかった生徒のスライド志望は増えそう。本気で畜産を目指す生徒が入学できるよう推薦入試や総合型選抜などの拡充を期待
- 農業高校から貴大学へ受験しやすい選抜があると助かる。本校でも畜産に興味を持ち，志を持って国立大学進学を目指す生徒がいるが，不合格になった際のリスクも大きいので慎重に判断している。生徒の選択肢のひとつとして貴大学を候補に挙げていきたいと思うので入試の制度や学校のPRを願う。
- 本校から宮崎大学へ進学した生徒がいる。畜産・和牛について学ぶ意義は九州の大学は高い
- 毎年、本校から畜産を学べる４年制大学農学部への進学者が数名いる。ここ数年、国公立大学進学への意識の高い生徒が増えている。新しい畜産学教育課程ができた場合でも、現在農学部で実施されている学校推薦型選抜と同様に農業高校からの受験者に対しての専門高校推薦枠は存続していただきたい。また、推進入試を実施される場合の受験方法及び受験科目等は、できるだけ早く公表していただきたい。